

# 官報

號外 昭和二十年二月一日

## ○第八十六回 帝國議會 貴族院議事速記録第七號

昭和二十年一月三十一日(水曜日)午前  
十時七分開議

議事日程 第七號

昭和二十年一月三十一日

午前十時開議

第一 船員保險法中改正法律案

(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二 所得稅法外十六法律中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 地方稅法及地方分與稅法中

改正法律案(政府提出、衆議院

送付) 第一讀會

○議長(公爵德川圀順君) 諸般ノ報告

ハ、御異議ガナケレバ、朗讀ヲ省略致

シマス

(參照)

去ル二十八日委員長ヨリ左ノ通分科擔

當委員及兼務委員ヲ選定シタル旨ノ報

告書ヲ提出セリ

豫算委員第二

分科擔當委員 山田 三良君

第三分科兼務委員

請願委員 男爵北島 貴孝君

第二分科擔當委員

請願委員 子爵加藤 泰通君

第四分科擔當委員

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提

出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ

衆議院ニ通知セリ

臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ

爲スヲ要スル件(追第二號)

一昨二十九日委員會ニ於テ當選シタル

正副委員長ノ氏名左ノ如シ

昭和二十年度一般會計歲出ノ財源ニ

充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法

律案特別委員會

委員長 侯爵德川 義親君

副委員長 兄玉 謙次君

外資金庫法案特別委員會

委員長 男爵東郷 安君

副委員長 子爵裏松 友光君

地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ

關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵二荒 芳德君

副委員長 男爵柴山 昌生君

昨三十日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出

セリ

昭和二十年度一般會計歲出ノ財源ニ

充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法

律案可決報告書

金資金融特別會計法外五法律中改正法

律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領

セリ

昭和二十年度歲入歲出總豫算案並昭

和二十年度特別會計歲入歲出豫算

案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ

爲スヲ要スル件

特殊財產資金豫算追加案(特產第一

號)

昭和十九年度歲入歲出總豫算追加案

(第一號)

昭和十九年度特別會計歲入歲出豫算

追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ

爲スヲ要スル件(追第一號)

昭和二十年度歲入歲出總豫算追加案

(第二號)

昭和二十年度特別會計歲入歲出豫算

追加案(特第二號)

船員保險法中改正法律案

所得稅法外十六法律中改正法律案

地方稅法及地方分與稅法中改正法律

案

軍需金融等特別措置法案

臨時資金調整法中改正法律案

戰時金融庫法中改正法律案

生命保險中央會法案

損害保險中央會法案

臺灣銀行法中改正法律案

○議長(公爵德川圀順君) 是ヨリ本日

ノ會議ヲ開キマス、請暇ノ件ニ付御諮

リヲ致シマス、芳澤謙吉君、病氣ニ付八

日間、福永吉之助君、病氣ニ付十一日

間、請暇ノ申出ガゴザイマシタ、許可

ヲ致シテ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川圀順君) 御異議ナイ

ト認メマス

○議長(公爵德川圀順君) 一昨二十九

日、豫算委員賀屋興宣君、都合ニ依リ

委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可ヲ

致シテ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川圀順君) 御異議ナイ

ト認メマス、就キマシテハ、第六部ニ

於テ、其ノ補闕選舉ヲ行ハレムコトヲ

望ミマス

○議長(公爵德川圀順君) 大藏大臣ヨ

リ發言ヲ求メラレテ居リマス、此ノ際

許可ヲ致シマス、石渡大藏大臣

(國務大臣石渡莊太郎君) 玆ニ昭和

二十年度歲入歲出總豫算及同追加豫算

ヲ一括、其ノ大要ヲ説明致シ、併セテ財

政經濟ニ關スル所見ノ一端ヲ申述ブル

機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ欣幸

トスル所デアリマス、昭和二十年度歲

入歲出總豫算及同追加豫算ノ各案ニ計

上致シマシタ金額ハ、之ヲ合計致シ、

歲入歲出共三二九億三千餘萬圓

デアリマシテ、歲入豫算ハ、經常部百

四十五億一千餘萬圓、臨時部百二十四

億二千餘萬圓、歲出豫算ハ、經常部九

十八億八千餘萬圓、臨時部百七十億四

千餘萬圓デアリマス、眞ニ重大ナル戰

局ニ直面セル我が國ハ、此ノ際國家總

力ノ戰列參加ヲ速カニ完了シ、能ク總

智總能ヲ發揮シ、臨機即應、以テ一路

戰勝ヘノ大道ヲ邁進スベキデアリマス、

即チ政府ノ豫算モ亦此ノ要請ニ即シテ

編成セラレタノデアリマシテ、施策ノ

重點ハ、之ヲ戰力ノ増強ト食糧ノ確保

トニ置キ、戰爭遂行上特ニ緊要ナル費

目ニ付テハ、努メテ所要ノ經費ヲ計上

シ、尙戰局ノ推移ニ對應シ、豫算ノ機

動性ヲ確保スル爲、第一豫備金二億圓

第二豫備金二十億圓ノ國庫豫備金ヲ計

上シ、以テ戰時豫算トシテ遺憾

ナキヲ期シタ次第デアリマス、先

ヅ歲出豫算ニ付テ説明致シマス、

昭和二十年度歲出豫算二百六十九

億三千餘萬圓ノ内、各省ヲ通ジ、既定

經費トシテ計上セラレタモノハ七十一

億八千餘萬圓、新規經費トシテ計上セ

ラレタモノハ百九十七億四千餘萬圓デ

アリマス、既定經費トシテ計上セラレ

昭和二十年二月一日

千餘萬圓ノ外、國債費、年金及恩給、地方分與金、義務教育費、國庫負擔金等、五十八億七千餘萬圓デアリマス、新規經費トシテ計上セラレタル主ナルモノニ付申述ベキマシテ、一、臨時軍事費特別會計（ノ繰入額ハ、本豫算ニ於テ前年度下略、同額ノ七十二億圓ヲ計上致シタノデアリマスガ、追加豫算ニ於テ、別途本議會ニ提出ニ係ル稅法改正ニ依ル増收額、及ビ近ク實施致ス豫定ノ煙草値上ニ依ル專賣益金ノ増加額、竝ニ別途本議會ニ法律案ヲ提出致シテ居リマスル所謂當籤ニ依ル收入、合計二十九億一千餘萬圓ヲ増額スルコトトシ、總額百一億一千餘萬圓ト相成ルノデアリマス、次ニ石炭價格調整補助金、アルミニウム一價格調整補助金、石油其ノ他液體燃料ノ自給促進、軍需用木材ノ増産確保ニ關スル經費等、重要物資ノ生産増強及價格調整等ニ關スルモノトシテ、總額三十三億六千餘萬圓ヲ計上致シテ居ルノデアリマス、次ニ肥料ノ確保増産、農業勞務及農業技術者ノ確保充實、魚類及蔬菜類ノ生産及配給ニ關スル經費等、食糧ノ生産及配給ニ關スルモノトシテ、總額六億三千餘萬圓ヲ計上致シテ居ルノデアリマス、其ノ他重要ナルモノト致シマシテハ、海陸空ヲ通ズル輸送力ノ増強ニ關スル經費トシテ三億八千餘萬圓、軍事扶助費ノ増加等、軍人援護ニ關スル經費トシテ三億餘萬圓、戰時ニ即應セル學校制度ノ整備其ノ他文教ニ關スル經費ト

シテ一億一千餘萬圓、戰爭完遂及大東亞諸民族ノ總力結集ヲ目的トスル外交及外政ノ強化ニ關スル經費トシテ九千餘萬圓ヲ計上致シテ居リマス、既定經費ニ付テハ、節約其ノ他努メテ減額ヲ圖リ、十六億餘萬圓ノ減少ト相成ルノデアリマスガ、前ニ申述ベキ通り現下ノ戰局ニ鑑ミ、必要ナル戰力増強、食糧確保ニ關スル經費等ニ付、努メテ其ノ充足ヲ圖リマシタル外、今回ノ増稅等ニ基ク臨時軍事費特別會計（ノ繰入額ノ増加、國債利子支拂總額ノ増加等モアリ、從ツテ本年豫算額ハ前年度ニ比シ差引五十一億四千餘萬圓ノ増加ト相成ツタ次第デアリマス、次ニ歳入豫算ニ付テ説明致シマス、歳入豫算二百六十九億三千餘萬圓ノ内、租稅其ノ他普通歳入ニ於テ七十七億一千餘萬圓ヲ計上シ、公債金收入ハ九十二億一千餘萬圓ヲ計上シテ居リマス、普通歳入ノ萬圓ヲ計上シテ居リマス、普通歳入ノ大宗タル租稅收入ハ、經常臨時ノ各部門ヲ合セ、其ノ總額百三十六億六千餘萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度豫算額ニ比較致シマスレバ、二十六億六千餘萬圓ノ増加ト相成ルノデアリマス、而シテ其ノ増加額ノ内、十九億二千餘萬圓ハ今回ノ増稅ニ基クモノデアリマシテ、殘餘ノ大半ハ所謂自然増收ニ係ルモノデアリマスガ、時局ノ推移ニ伴ヒ、遊興飲食稅等ノ間接稅收入ニ於テ相當ノ減少ヲ生ズルニモ拘ラズ、所謂稅其ノ他直接稅ニ於テ多額ノ自然増收ヲ見積リ得マスコトハ、一面經濟界ノ實勢ヲ反

映スルト共ニ、他、國民ノ愛國の熱誠ノ結果デアルト存ジ、邦家ノ爲誠ニ意ヲ強ウスル次第デアリマス、戰局ノ進展ニ伴フ軍事費等ノ増大竝ニ最近ニ於ケル通貨、金融ノ諸情勢ニ鑑ミマスレバ、此ノ際増稅ヲ行フコトハ大局上已ムヲ得ザル所ト考フルノデアリマス、而シテ戰局ノ現段階ニ於キマシテハ、租稅制度ニ改變ヲ加フルコトヲ避ケ、簡素且重點的ニ増稅ヲ圖ルコトヲ適當ト認メ、分類所得稅、法人稅、酒稅等ノ主要租稅ニ付、稅率ノ引上ヲ行フコトト致シ、尙租稅ノ賦課徵收ノ簡素化、時局下必要ナル租稅ノ減免等ヲ行フコトト致シタノデアリマス、増稅案ノ内容ニ付キマシテハ、關係法律案上程ノ際詳細ニ説明致シタイト存ジマス、次ニ公債金收入ハ、前ニ申述ベキマシテ、九十二億一千餘萬圓デアリマシテ、前年度ニ比シ三十一億二千餘萬圓ヲ増加致シテ居リマスガ、右一般會計ニ於ケル公債發行豫定額ノ外、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、政府出資帝國鐵道及通信事業各特別會計ニ於テ、合計十五億一千餘萬圓ノ發行ヲ豫定致シテ居リマスノデ、昭和二十年年度歲出財源タル公債發行豫定額ハ、一般、特別兩會計ヲ通ジ百七億三千餘萬圓ト相成ルノデアリマス、之ニ疊ヒ協贊ヲ得タル臨時軍事費ノ財源トシテ公債發行豫定額三百五十二億九千餘萬圓ヲ加ヘマスレバ、公債ノ總額ハ四百六十億二千餘萬圓ト相成ル計算デアリマシテ、之

ヲ昭和十九年度ニ於ケル公債發行豫定總額三百三十七億八千餘萬圓ニ比較致シマスレバ、百二十二億四千餘萬圓ノ増加ト相成ルノデアリマス、支那事變勃發以來昨年未迄ニ發行セラレマシタル公債ノ總額ハ、八百四十九億七千餘萬圓、消化額七百六十七億三千餘萬圓、昨年申ニ發行セラレマシタル公債ハ二百六十九億九千餘萬圓、消化額二百五十億一千餘萬圓デアリマシテ、公債ヲ財源トスル戰費ノ調達、豫算ノ執行ハ何等ノ支障ナク遂行セラレツ、アルノデアリマス、公債ガ順調ニ消化セラレマシタガ爲ニハ、一、國民貯蓄ノ増強ニ俟タネバナラヌコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、昭和十九年度ノ國民貯蓄增加目標額ハ四百十億圓デアリマスガ、其ノ實績ヲ見マスルト、第三四半期迄ニ銀行預金ニ於テ約百五十四億圓、郵便貯金ニ於テ約七十九億圓、其ノ他各種ノ蓄積ヲ併セマシテ、合計大凡三百四十五億圓ノ増加ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク國民貯蓄ノ激増シツ、アル事實ハ、全ク全國民ノ努力ノ賜デアリマシテ、非常時局ニ際シ、國ヲ思フ我ガ國民ノ熱意ニ對シマシテハ、此ノ機會ニ於キマシテ深甚ナル敬意ヲ表スルモノデアリマス、併シナガラ前ニ申述ベキマシタ通り、昭和二十年年度ニ於テハ更ニ多額ノ公債増發モ豫定致サレ、國民貯蓄ノ増加ノ目標額モ、六百億圓ヲ下ラズト認メラレマス、

國民貯蓄ノ増強ニ付キマシテハ政府ニ於テモ一段ト力ヲ盡シ、貯蓄ノ劃當ニ付一層適正ヲ期スルコトハ勿論、他面、時局ノ進展ニ伴ヒ所得ノ増加セル方面ニ對シ、今後特ニ有效適切ナル手段ヲ講ジテ、其ノ貯蓄額ノ増加ヲ計ル等、貯蓄制度ノ全般ニ互リ、廣ク官民各界ノ意嚮ニモ諮リ、之ガ運営改善ニ努力致ス所存デアルト共ニ、法律ノ改正ヲ要スルモノニ付テハ、別途法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ特別會計豫算ニ付申述ベキマシレバ、各會計共何レモ一般會計ニ準ジテ編成致シタノデアリマシテ、戰力増強、食糧確保等ノ施策ニ重點ヲ置キ、重要物資ノ生産増強及價格調整ニ關スル經費、重要食糧ノ増産ニ關スル經費、輸送力ノ増強ニ關スル經費、防空及防衛ニ關スル經費等ノ新規經費ヲ計上スルト共ニ、帝國鐵道特別會計ニ於テハ鐵道運賃ノ値上ヲ、通信事業特別會計ニ於テハ郵便料金ノ引上ヲ行ヒ、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局及樺太廳ノ地域特別會計ニ於テハ、増稅及煙草ノ値上、竝ニ鐵道運賃及郵便料金ノ引上ヲ行ヒ、其ノ増收額ノ一部ハ、之ヲ戰費ノ財源トシテ臨時軍事費特別會計（繰入ル、コトト致シタノデアリマス、即チ其ノ繰入額ハ、從來ヨリノ分ト併セ、朝鮮總督府特別會計ヨリ六億二千餘萬圓、臺灣總督府特別會計ヨリ二億餘萬圓、關東局特別會計ヨリ一億六千餘萬圓、樺太廳特別會計ヨリ四千餘萬圓、帝國鐵道特別會計ヨリ二億七千餘萬

圓、通信事業特別會計ヨリ二億四千萬元、合計十五億五千餘萬圓ト相成ル次第アリマス、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件中、主ナルモノハ、軍需關係資材確保措置費四十一億圓、防空對策補助二十億圓、食糧及薪炭増産確保措置費七億圓ヲ始メト致シ、日本發送電株式會社、滿洲拓植公社等ノ發行スル債券ニ對スル元利保護、帝國鑛業開發株式會社、産業設備機關、生命保險中央會等ニ對スル損失補償、其ノ他外國爲替損失補償金、肥料供給確保補助、疎開事業費補助、地方災害復舊土木費補助等アリマス、尙茲ニ一言申述ベタイト存ジマス、大東亞戰爭ニ要スル軍事費ハ、過日臨時軍事費豫算追加第一號トシテ協贊ヲ得マシタリ昭和二十年度一般會計歳出豫算額ニ加ヘマスレバ、其ノ合計額ハ一千九百九十九億三千餘萬圓トナリ、此ノ合計額ヨリ兩會計間ノ重複額ヲ差引キマスレバ、一千八百八十億一千餘萬圓ト相成リ、其ノ内、現地ニ於テ支出致サル、軍事費ヲ差引キマシテモ、昭和二十年度ニ於テハ、前年度ニ比シ相當多額ナル經費ノ國內支出ヲ豫想致サレルノデアリマス、資金、物資、勞務等、國民經濟ノ各般ニ互リ多大ノ影響ヲ及スモノト考ヘラル、ノデアリマス、政府ト致シマシテハ、豫算ノ施行ニ當リ此ノ點十分留意ヲ致シ、戰時財政經濟ノ圓滑ナル運営ニ支障ナカラシメムコトヲ期

スル所存デアリマスガ、同時ニ又國民各位ノ絶大ナル協力ヲ希望スル次第デアリマス、以上ヲ以テマシテ昭和二十年度歳入歳出豫算ノ大要ヲ説明致シタノデアリマスガ、今之ヲ資金面ヨリ考察致シマスレバ、右國家財政所要ノ資金ノ外、地方財政所要ノ資金ト、更ニ戦力増強ノ爲必要ナル産業資金ノ所要ヲ併セ考慮致シマスルト、昭和二十年度ニ於キマスル資金所要ノ總額ハ、是亦甚大ナル額ニ上ルモノト豫想致サレルノデアリマス、財政資金タルト産業資金タルトヲ問ハズ、是等戰爭遂行上缺クベカラザル資金ノ供給ヲ絕對ニ確保スルコトハ、戰時下當然ノ必要事デアリマス、而シテ財政資金及産業資金放出ノ増大ニ伴ヒ、勢ヒ通貨流通高ノ増加ヲ來シマスコトハ避ケ難キ所デアリマシテ、我が國ニ於キマシテモ、支那黨變勃發以來、通貨ハ漸増ノ趨勢ヲ辿リ、日本銀行券ノ昨昭和十九年中ニ於ケル平均發行高ハ百二十億五千餘萬圓ト相成ツテ居ルノデアリマス、通貨流通高ノ増加ハ避ケ難キコトデアリマスガ、其ノ膨脹度ヲ超ユルニ於キマシテハ、物價ノ昂騰ヲ促シ、經濟ノ安定ヲ害シ、銃後戦力ノ低下ヲ來ス虞モアリマスノデ、之ヲ抑止スルノ要アルコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、兎モスレバ資金ヲ輕視セムトスル傾向ニ對シテハ、嚴ニ之ヲ戒メ、財政資金ニ於テモ、産業資金ニ於テモ、苟モ濫費ノ弊ナキヤウ資金ノ効率化ヲ圖ルト共

ニ、一度放出致サレマシタル資金ニ付テハ、極力之ガ回收ニ努メ、以テ戰爭遂行ノ基礎タル經濟秩序ノ維持ニ萬全ヲ期スル所存デアリマス、決戦下空襲等、非常ノ際ニ於ケル經濟對策ニ付キマシテハ、曩ニ戰時非常金融對策ヲ確立シ、又戰時特殊損害保險ノ制度ヲ創設シ、租稅減免、其ノ他各般ノ措置ヲ講ジ來ツタノデアリマスガ、逐次整備強化シ、是等ノ制度ハ日ヲ逐ウテ漸次一般ニ普及徹底セラレ、非常ノ事態ニ際シマシテ、民心ノ安定確保ノ上ニ相當效果ヲ收メツ、アルノデアリマス、又今後戰局ノ展開ニ對應致シマシテ、經濟界ノ各方面ニ於キマシテモ、迅速ニ之ニ對處スベキ態勢ヲ整備ヲ圖ルノ要緊切ナルモノガアルト存ジマス、就中産業、資材、勞務ノ各部門ニ於テハ、急速ナル配置轉換ノ必要等ノ生ズルコトガ豫想致サレルノデアリマシテ、之ニ對シマシテハ、臨機應變、敏速果敢ニ對處スル、共ニ、之ガ轉換ヲ極力圓滑且整然ト推移セシムルヤウ周到ナル配慮ヲ行ヒ、決戦下ニ於ケル國家經濟ノ運営ニ苟モ滞滯ヲ生ゼザラシメヌコトヲ期セバナラヌト考フルノデアリマス、次ニ大東亞共榮圈內ニ於ケル各國家各民族ニ對シ、我が國ト致シマシテハ、財政上、經濟上幾多ノ支援ヲ與ヘ、其ノ經濟發展ニ協力シ來ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、今後ニ於キマシテモ、苛烈ナル戰局下、重難ヲ排シ、全幅ノ支援ト協力トヲ惜シマス、

以テ諸國家諸民族ノ信頼ト期待トニ應ヘ、益、提携ヲ緊密ニシ、相携ヘテ大東亞經濟ノ建設ニ一層ノ努力ヲ傾注セムトスルモノデアリマス、今ヤ戰局ハ展開シ、皇國興廢ノ岐ル、秋デアリマス、此ノ時艱ヲ克服シ、敵米英ノ野望ヲ擊碎スル爲ニハ、軍國要請ノ方向ニ應ジ、必勝ノ信念ニ徹スル確乎不拔ノ精神ヲ以テ、國家ノ總力ヲ動員集中ズルノ必要ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、今こそ一億國民擧ツテ旺盛ナル戰意ヲ振起シ、前線勇士ノ敢闘ニ呼應シ、銃後戰線ニ於テモ、沈著冷靜、或ハ生産ニ勵ミ、或ハ消費ヲ節シ、納稅ニ、貯蓄ニ、奉公ノ赤誠ヲ捧ゲ、以テ財政戰、經濟戰ニ於テモ敵米英ヲ打倒シ去ラムコトヲ切々希望シテ止ミマセヌ、政府提出ノ豫算各案ニ付キマシテハ、何卒十分御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(公壽徳川閣議) 二荒伯爵 ハドウ云フコトデスカ  
○伯爵二荒芳徳君 緊急ナル疑問ヲ持チマシタ點ニ付キマシテ、私ハ此ノ際議員ノ職責ト致シマシテ、之ヲ伺ハザルコトハ、知ツテ言ハザルノ苦衷ヲ感ジマスノデ、議長ニ於テ發言ヲ御許シ願ヒタイト思ヒマス、總理大臣ノ過日姉妹議員ニ對シテ答ヘラレマシタ點ガ、速記録ニ依リマシテ拜見致シマスト、御言葉ノ足りナイ爲ニ、民族理想、  
信仰ノ上カラ、國體ノ根本義ニ於キマシテ、或ハ誤リ傳ヘラル、所ナキヲ保セナイト云フ老ヲ私ハ深く持チマシタ、議長ノ明晰ニ依ツテ、私ノ登壇ヲ許サレムコトヲ希望致シマス  
○議長(公壽徳川閣議) 二荒伯爵ノ勸議ニハ、贊成者ガゴザイマセヌカラ成立致シマセヌ  
○伯爵二荒芳徳君 議長、私ハ質問ヲ致スノデアリマセヌ、總理大臣ノ御等辯ノ御言葉ガ足りナイ爲ニ、此ノ速記録ニ現レマシタ所ヲ以テ致シマスレバ、或ハ誤解ヲ生ズルコトヲ懼レルノデアリマス、斯クノ如キ誤解ガ、若シ廣ク行ハレマシタ時ニハ由タシキ大ニ事ト思ヒマスガ故ニ、私ハ發言ヲ要求致シタノデアリマス、總理大臣ノ之ニ對スル御答辯ヲ要求致スモノデハゴザイマセヌシ、又緊急ナル質疑ヲ提起シタモノデモゴザイマセヌ、唯議員ノ職責トシテ、私ガ此ノ壇上ニ立ツコトヲ御許シニナルカナラヌカト云フコトヲ、議長ノ裁斷ニ仰ガウト思フノデアリマス……議長、私ハ質問ヲ致スノデアリマセヌ、了解ノ出來ナイ所ヲハゴザイマセヌ、唯陳述ヲ致シマシテ、本員ハ斯クノ如ク考ヘテ居リマス云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス、是ハ……質疑ト致シマシテハ既ニ書類ヲ以テ提出致シテ居リマスノデ、其ノ質疑ト離レテ居ルト云フコトデゴザイマセヌ……是ハ議員ノ職責トシテ當然何フコトガ自然デアルト思フノデアリマス……議長、重

ネテ申上ゲマス

○議長(公爵徳川國順君) チヨット御待チテ願ヒマス……二荒伯爵ニ御答ヘ致シマス、質疑以外政府ノ辨明ヲ求ムル發言ハ、之ヲ許可シテ先例ハアリマセヌ、仍テ之ヲ許スヤ否ヤハ議場ニ御諮リシテ決定致シタイト存ジマス、二荒伯爵ノ質疑……

○伯爵(二荒芳徳君) 議長、先例ノナイト云フ御言葉ハ承リマシタガ、私ハ議事規則ヲ見マシテ、議員ノ職責ト致シマシテ、一國ノ總理大臣ガ仰セニナツタ御言葉ガ足りナイ爲ニ、若シモ誤解ガ世間ニアルト云フコトガゴザイマシタラバ、是亦總理大臣ノ御責任ト感ジマス、私共ハ議員ト致シマシテ其ノ職責ヲ奉行スルコトニ於テ、寸分ノ遲疑遠慮ヲ許サナイ狀況ニアルト思ヒマス、先例ト云フ御言葉ハ能ク分リマスガ、是ハ議事規則ノ條規ニ依ツテ私ノ發言ヲ御許シニナラナイト云フコトナラバ、御明示ヲ願ヒタイト存ジマス、之ヲ議場ニ御諮リニナルト仰セニナル御言葉ニ對シマシテ、私ノ質疑トスル所ガドウ云フ内容デアアルカ、又如何ナル信念ノ下ニ私ガ申上ゲテ居ルカ、其ノ内容ナシニ之ヲ議場ニ御諮リニナルト云フコトハ出來ルコトデアアリマセウカ、重ねテ私ハ御明斷ヲ仰ギマス

○議長(公爵徳川國順君) 二荒伯爵ノ動議ヲ……發言ヲ、動議デハゴザイマセヌ、發言ヲ許スコトニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(起立者少數)

○議長(公爵徳川國順君) 少數デアリマス、仍テ發言ヲ許シマセヌ

○議長(公爵徳川國順君) 日程ニ移リマス、日程第一、船員保險法中改正法律案 政府提出 衆議院送付 第一讀會 廣瀬厚生大臣

船員保險法中改正法律案 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和二十年一月三十日 衆議院議長 岡田 忠彦 貴族院議長 公爵徳川國順殿

船員保險法中改正法律案

船員保險法中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船舶所有者ニ使用セラルル者ガ職務執行ノ對價トシテ受クル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及療養費、傷病手當金、障害手當金、葬祭料又ハ第四十五條ノ二ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、障害年金、脱退手當金、遺族年金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條乃至第四十二條ノ三、第四十九條若ハ第五十條ノ六ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第九條及第六十一條中「雇傭」ヲ「使用」ニ改ム  
第十二條第三項中「市町村」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)ニ、同條第四項中「市町村」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)ニ、市町村ハ」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)ハ」ニ改ム  
第十五條中「國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ」所有ニ屬スル船舶ニ乗組ム船員」ヲ「國、東京都、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ」ニ改ム  
第十七條 船員法第一條ニ規定スル船員又ハ同法同條ニ規定スル船員タル者(以下船員ト總稱ス)トシテ船舶所有者ニ使用セラルル者ハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ノ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 日本ノ國籍ヲ有セザル者  
二 前號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者  
第十八條 被保險者ハ船員トシテ船舶所有者ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス  
第十九條中「船舶ニ乗組マザルニ至リタル日、第十七條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日」ヲ「船員トシテ船舶所有者ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル日」ニ改ム  
第二十條第一項中「十年」ヲ「七年」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ關シ

テハ老齡、脱退又ハ死亡ニ關スル保險給付(葬祭料ヲ除ク)ニ限リ之ヲ爲スモノトス  
第二十二條第一項中「書」削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ規定ニ拘ラズ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ月ハ一月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス  
第二十二條ノ二ヲ削ル  
第二十三條中「第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金」ヲ「遺族年金、葬祭料、第三十六條、第三十七條、第四十二條乃至第四十二條ノ三若ハ第五十條ノ六ノ規定ニ依ル一時金又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル支給金」ニ改ム  
第二十四條中「及發疾年金」ヲ「障害年金及遺族年金」ニ改ム  
第二十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第二十七條ノ二 保險給付ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ガ支給ヲ受クベキ保險給付ニシテ未ダ其ノ支給ヲ受ケザリシモノ又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルニ因リ支給スベキ脱退手當金ハ之ヲ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス  
第二十八條第三項ヲ削ル  
第三十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ療養ノ職務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額(被保險者タリシ者ニ在リテハ被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬日額)ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス  
第三十一條中「被保險者タリシ者」ヲ

「被保險者又ハ被保險者タリシ者」ニ改ム  
第三十二條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ之ヲ爲サズ  
第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額(以下平均報酬月額ト稱ス)ノ四月分ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬月額(平均報酬月額ノ三分ノ一ノ額トス以下同ジ)ノ六月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス  
第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ職務上ノ事由以外ノ事由(以下職務外ノ事由ト稱ス)ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受ケルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
前項ノ規定ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ  
第二十八條 削除  
第四節 發疾年金及發疾手當金」ヲ

「被保險者又ハ被保險者タリシ者」ニ改ム  
第三十二條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ之ヲ爲サズ  
第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額(以下平均報酬月額ト稱ス)ノ四月分ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬月額(平均報酬月額ノ三分ノ一ノ額トス以下同ジ)ノ六月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス  
第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ職務上ノ事由以外ノ事由(以下職務外ノ事由ト稱ス)ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受ケルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
前項ノ規定ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ  
第二十八條 削除  
第四節 發疾年金及發疾手當金」ヲ

「被保險者又ハ被保險者タリシ者」ニ改ム  
第三十二條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ之ヲ爲サズ  
第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額(以下平均報酬月額ト稱ス)ノ四月分ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬月額(平均報酬月額ノ三分ノ一ノ額トス以下同ジ)ノ六月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス  
第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ職務上ノ事由以外ノ事由(以下職務外ノ事由ト稱ス)ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受ケルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
前項ノ規定ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ  
第二十八條 削除  
第四節 發疾年金及發疾手當金」ヲ



リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ二月半分ニ相當スル金額

四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ職務上ノ事由ニ因リ第四十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル内令ノ定ムル期間内ニ死亡シタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ五分ニ相當スル金額

前項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ十五年以上被保險者タリシ者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支給セラルル遺族年金ノ額ハ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬日額ノ三分分ニ相當スル金額ヲ同項第三號又ハ第四號ノ金額ニ加ヘタル金額トス

第五十條ノ三 遺族年金ノ支給ヲ受クベキ遺族ノ範圍ニ屬スル子(現ニ遺族年金ノ支給ヲ受クル子ヲ除ク)アルトキハ其ノ子一人ニ付平均報酬日額ノ十分分ニ相當スル金額ヲ前條各項ノ金額ニ加給ス

第五十條ノ四 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ其ノ他親令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者アルトキハ其ノ者ニ遺族年金ヲ支給ストキハ其ノ者ニ遺族年金ヲ支給ス

第五十條ノ五 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ所在不明中遺族年金ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ停止シタル場合ニ於テハ停止期間中遺族年金ハ之ヲ當該次順位者

ニ轉給ス

第五十條ノ六 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一 養老年金又ハ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ障害年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又ハ障害年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受ケルコトナクシテ職務外ノ事由ニ因リ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者ノ支給ヲ受ケルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ職務上ノ事由ニ因リ第四十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル内令ノ定ムル期間内ニ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ同條各項ノ區分ニ準ジ其ノ一時金ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第五十條ノ七 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ被保險者タリシ

者ノ遺族ニ對シ葬祭料トシテ被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬月額ノ二分分ニ相當スル金額ヲ支給ス

一 被保險者ガ死亡シタルトキ

二 被保險者タリシ者ガ葬祭料ノ資格喪失後三月以内ニ死亡シタルトキ

三 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受ケルモノガ死亡シタルトキ

四 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受ケタルモノガ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日從三月以内ニ死亡シタルトキ

被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ葬祭料ノ支給ヲ受クベキ者ナキトキハ葬祭料ノ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ葬祭ニ要シタル費用ニ相當スル金額ノ葬祭料ヲ支給ス

第五十一條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ノ事故ヲ生ゼシメタルトキハ療養ノ給付又ハ傷病手当金、障害年金、障害手当金、第四十五條ノ二ノ規定ニ依ル一時金、遺族年金若ハ葬祭料ノ支給ヲ爲サズ

第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル支給金、第三十六條、第三十七條、第四十二條乃至第四十二條ノ三若ハ第五十條ノ六ノ規定ニ依ル一時金、遺族年金又ハ葬祭料ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者 被保險者タリシ者、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受ケル者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受ケル者ノ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給ヲ爲サズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ヲ

爲ス

第五十二條中「發疾年金若ハ發疾手当金」ヲ「障害年金、障害手当金若ハ第四十五條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ改ム

第五十六條第一項中「發疾年金」ヲ「障害年金」ニ、同條第二項中「發疾年金若ハ發疾手当金」ヲ「障害年金若ハ障害手当金」ニ改ム

第五十七條中「又ハ發疾年金」ヲ「障害年金又ハ遺族年金」ニ改ム

第五十八條第一項中「及傷病手当金」ヲ「傷病手当金及葬祭料」ニ、同條第三項中「前項」ヲ「前項及第七十六條」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第六十條 被保險者及被保險者ヲ使用スル船舶所有者ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶所有者ノ負擔スベキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ保險料額ノ全額ヲ負擔ス

第六十條ノ二 被保險者ガ陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第七十二條中「關東州船員令」ニ依ル船員一ヲ「關東州船員保險令」ニ依ル被保險者」ニ改ム

第八章 戰時特例

第七十三條 大東亞戰爭ニ際シ被保險者ガ勅令ヲ以テ指定スル區域ヲ主トシテ航行スル船舶(主務大臣ノ指定スル船舶ヲ除ク)ニ被保險者トシテ乘組ミタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間ニ於ケル被保險者タリシ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ被保險者ガ同項ニ規定スル區域ヲ航行中戰爭危險

又ハ之ニ準ズベキ危險ニ遭遇シ因リテ發疾ト爲リ障害年金ノ支給ヲ受クベキトキ若ハ第四十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期間内ニ死亡シタルトキ又ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル船舶ニ乘組ミタル期間ニ於ケル被保險者タリシ期間ノ一月ニ付三月以内ヲ加算ス

第七十四條 昭和十六年十二月八日以後障害年金及障害手当金ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ被保險者トシテ船舶ニ乘組ミ職務ニ從事中戰爭危險又ハ之ニ準ズベキ危險ニ遭遇シ因リテ障害年金及障害手当金ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ障害年金又ハ障害手当金ノ支給ヲ受クベキ程度ノ發疾ノ狀態ニ在ル者ニ對シテハ障害年金及障害手当金ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ發疾ト爲リタル場合ト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ發疾ノ程度ニ應ジ障害年金又ハ障害手当金ヲ支給ス

第七十五條 昭和十六年十二月八日以後遺族年金ニ關スル規定及第四十二條ノ三ノ規定施行ノ日前ニ於テ被保險者トシテ船舶ニ乘組ミ職務ニ從事中戰爭危險又ハ之ニ準ズベキ危險ニ遭遇シ因リテ死亡シタル者ニ關シテハ遺族年金ニ關スル規定及第四十二條ノ三ノ規定施行ノ日前ニ於テ死亡シタル場合ト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ遺族ニ對シ遺族年金又ハ第四十二條ノ三ノ規定ニ依ル一時金ヲ支給ス

第七十六條 國庫ハ第五十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ第七十三條ノ規定ニ依リ增加スベキ保險給付ニ要スル費用ヲ負擔ス

第九八

國庫ハ第五十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ大東亞戰爭ニ際シ被保險者トシテ船舶ニ乗組ミ職務ニ從事中戰爭危險又ハ之ニ準ズベキ危險ニ遭遇シ因リテ發疾ト爲リ又ハ死亡シタル者ニ關シ支給スベキ障害年金、障害手當金、遺族年金又ハ第四十二條、第四十三條ノ三、第四十五條ノ二若ハ第五十條ノ六ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ニ要スル費用ヲ負擔ス

附則 第二項中「別段ノ定ヲ爲スコトヲ得」ノ下ニ但シ第四十二條ノ三若ハ第四十七條ノ二又ハ第五十條第三號ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ」ヲ加ヘ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル者ニハ第四十七條ノ三ノ規定ニ依リ脱退手當金ヲ支給セズ

附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 第七十三條ノ規定ハ昭和十九年一月一日以後同條ノ船舶ニ乗組ミタル期間ニ之ヲ適用ス

昭和十九年一月一日前ニ於ケル被保險者タリシ期間ノ加算及之ニ因リ増加スベキ保險給付ニ要スル費用ノ負擔ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第三條 第七十四條及第七十五條ノ規定ニ依ル障害年金又ハ遺族年金ハ第二十四條ノ規定ニ拘ラズ本法施行ノ日ヨリ之ヲ支給ス

第四條 本法施行ノ際發疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ對スル障害年金ノ支給及其ノ者ガ死亡シタル場合ニ於ケル第四十二條ノ改正規定又ハ第四十二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第五條 昭和十五年法律第十四號中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「及傷病手當金」ヲ「傷病手當金及葬祭料」ニ改ム

第六條 船員法中左ノ通改正ス

第二十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

船員保險法ニ依リ療養ノ給付、傷病手當金又ハ葬祭料ヲ支給セラルベキトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ保險給付ノ限度ニ於テ同項ノ規定ニ依ル扶助、手當ノ支給又ハ葬祭ノ費用ノ負擔ヲ爲スコトヲ要セズ

別表第一

| 發疾ノ程度 | 月數   |
|-------|------|
| 一級    | 八・〇月 |
| 二級    | 七・〇月 |
| 三級    | 六・五  |
| 四級    | 六・〇  |
| 五級    | 五・五  |
| 六級    | 五・〇  |

別表第二

| 發疾ノ程度 | 月數  |
|-------|-----|
| 一級    | 二・五 |
| 二級    | 二・〇 |
| 三級    | 一・五 |
| 四級    | 一・二 |
| 五級    | 九   |
| 六級    | 六   |
| 七級    | 四   |
| 八級    | 二   |

別表第四

| 被保險者タリシ期間 | 月數     |
|-----------|--------|
| 一一年以上     | 一・三・〇  |
| 一二年以上     | 一・四・五  |
| 一三年以上     | 一・六・〇  |
| 一四年以上     | 一・八・〇  |
| 一一年以上     | 二・三・〇  |
| 一二年以上     | 二・四・五  |
| 一三年以上     | 二・六・〇  |
| 一四年以上     | 二・八・〇  |
| 一五年以上     | 三・〇    |
| 一六年以上     | 三・一・五  |
| 一七年以上     | 三・三・〇  |
| 一八年以上     | 三・四・五  |
| 一九年以上     | 三・六・〇  |
| 二〇年以上     | 三・七・五  |
| 二一年以上     | 三・九・〇  |
| 二二年以上     | 四・〇    |
| 二三年以上     | 四・一・五  |
| 二四年以上     | 四・三・〇  |
| 二五年以上     | 四・四・五  |
| 二六年以上     | 四・六・〇  |
| 二七年以上     | 四・七・五  |
| 二八年以上     | 四・九・〇  |
| 二九年以上     | 五・〇    |
| 三〇年以上     | 五・一・五  |
| 三一年以上     | 五・三・〇  |
| 三二年以上     | 五・四・五  |
| 三三年以上     | 五・六・〇  |
| 三四年以上     | 五・七・五  |
| 三五年以上     | 五・九・〇  |
| 三六年以上     | 六・〇    |
| 三七年以上     | 六・一・五  |
| 三八年以上     | 六・三・〇  |
| 三九年以上     | 六・四・五  |
| 四〇年以上     | 六・六・〇  |
| 四一年以上     | 六・七・五  |
| 四二年以上     | 六・九・〇  |
| 四三年以上     | 七・〇    |
| 四四年以上     | 七・一・五  |
| 四五年以上     | 七・三・〇  |
| 四六年以上     | 七・四・五  |
| 四七年以上     | 七・六・〇  |
| 四八年以上     | 七・七・五  |
| 四九年以上     | 七・九・〇  |
| 五〇年以上     | 八・〇    |
| 五一以上      | 八・一・五  |
| 五二以上      | 八・三・〇  |
| 五三以上      | 八・四・五  |
| 五四以上      | 八・六・〇  |
| 五五以上      | 八・七・五  |
| 五六以上      | 八・九・〇  |
| 五七以上      | 九・〇    |
| 五八以上      | 九・一・五  |
| 五九以上      | 九・三・〇  |
| 六〇以上      | 九・四・五  |
| 六一以上      | 九・六・〇  |
| 六二以上      | 九・七・五  |
| 六三以上      | 九・九・〇  |
| 六四以上      | 一〇・〇   |
| 六五以上      | 一〇・一・五 |
| 六六以上      | 一〇・三・〇 |
| 六七以上      | 一〇・四・五 |
| 六八以上      | 一〇・六・〇 |
| 六九以上      | 一〇・七・五 |
| 七〇以上      | 一〇・九・〇 |
| 七一以上      | 一一・〇   |
| 七二以上      | 一一・一・五 |
| 七三以上      | 一一・三・〇 |
| 七四以上      | 一一・四・五 |
| 七五以上      | 一一・六・〇 |
| 七六以上      | 一一・七・五 |
| 七七以上      | 一一・九・〇 |
| 七八以上      | 一二・〇   |
| 七九以上      | 一二・一・五 |
| 八〇以上      | 一二・三・〇 |
| 八一以上      | 一二・四・五 |
| 八二以上      | 一二・六・〇 |
| 八三以上      | 一二・七・五 |
| 八四以上      | 一二・九・〇 |
| 八五以上      | 一三・〇   |
| 八六以上      | 一三・一・五 |
| 八七以上      | 一三・三・〇 |
| 八八以上      | 一三・四・五 |
| 八九以上      | 一三・六・〇 |
| 九〇以上      | 一三・七・五 |
| 九一年以上     | 一三・九・〇 |
| 九二以上      | 一四・〇   |
| 九三以上      | 一四・一・五 |
| 九四以上      | 一四・三・〇 |
| 九五以上      | 一四・四・五 |
| 九六以上      | 一四・六・〇 |
| 九七以上      | 一四・七・五 |
| 九八以上      | 一四・九・〇 |
| 九九以上      | 一五・〇   |
| 一〇〇以上     | 一五・一・五 |
| 一〇一年以上    | 一五・三・〇 |
| 一〇二以上     | 一五・四・五 |
| 一〇三以上     | 一五・六・〇 |
| 一〇四以上     | 一五・七・五 |
| 一〇五以上     | 一五・九・〇 |
| 一〇六以上     | 一六・〇   |
| 一〇七以上     | 一六・一・五 |
| 一〇八以上     | 一六・三・〇 |
| 一〇九以上     | 一六・四・五 |
| 一一〇以上     | 一六・六・〇 |
| 一一一年以上    | 一六・七・五 |
| 一一二以上     | 一六・九・〇 |
| 一一三以上     | 一七・〇   |
| 一一四以上     | 一七・一・五 |
| 一一五以上     | 一七・三・〇 |
| 一一六以上     | 一七・四・五 |
| 一一七以上     | 一七・六・〇 |
| 一一八以上     | 一七・七・五 |
| 一一九以上     | 一七・九・〇 |
| 一二〇以上     | 一八・〇   |
| 一二一年以上    | 一八・一・五 |
| 一二二以上     | 一八・三・〇 |
| 一二三以上     | 一八・四・五 |
| 一二四以上     | 一八・六・〇 |
| 一二五以上     | 一八・七・五 |
| 一二六以上     | 一八・九・〇 |
| 一二七以上     | 一九・〇   |
| 一二八以上     | 一九・一・五 |
| 一二九以上     | 一九・三・〇 |
| 一三〇以上     | 一九・四・五 |
| 一三一以上     | 一九・六・〇 |
| 一三二以上     | 一九・七・五 |
| 一三三以上     | 一九・九・〇 |
| 一三四以上     | 二〇・〇   |
| 一三五以上     | 二〇・一・五 |
| 一三六以上     | 二〇・三・〇 |
| 一三七以上     | 二〇・四・五 |
| 一三八以上     | 二〇・六・〇 |
| 一三九以上     | 二〇・七・五 |
| 一四〇以上     | 二〇・九・〇 |
| 一四一年以上    | 二一・〇   |
| 一四二以上     | 二一・一・五 |
| 一四三以上     | 二一・三・〇 |
| 一四四以上     | 二一・四・五 |
| 一四五以上     | 二一・六・〇 |
| 一四六以上     | 二一・七・五 |
| 一四七以上     | 二一・九・〇 |
| 一四八以上     | 二二・〇   |
| 一四九以上     | 二二・一・五 |
| 一五〇以上     | 二二・三・〇 |

〔國務大臣廣瀨久忠君登壇〕 只今議題トナリマシタ船員保險法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、戦局愈々危急ナル現情勢下ニ於キマシテ、海上輸送ノ飛躍的増強ヲ圖リマスコトハ、聖戰ヲ完遂スル最大要件ノ一ツデアリマス、之ガ爲ニハ海上第一線ニ決死敢闘ヲ續ケツ、アル船員ノ勤勞態勢ヲ更ニ強化シ、其ノ士氣ヲ愈々昂揚セシメ、後顧ノ憂ナク輸送報國ノ任務達成ニ挺身セシムルヤウ、各般ノ施策ヲ強力ニ推進シ、船員援護ノ徹底的強化ヲ圖ルコトコソ焦眉ノ急務ナリト存ズル次第デアリマス、仍テ茲ニ本改正法律案ヲ提出致シタ次第デアリマシテ、今其ノ概要ニ付申述ベマスレバ、先ヅ被保險者ノ擴充デアリマス、即チ船員ノ海上勤務ノ特殊事情ニ基キ、從來本法ノ適用範圍外ニ置カレマシタ豫備船員等ニモ、本法ノ適用ヲ擴張スルコト致シマシタ、次イデ保險給付ノ全面ニ互ツテ、給付金額ノ増加、保險給付支給條件ノ緩和等內容ノ改善ヲ圖リ、特ニ職務ノ爲傷病ヲ受ケ、又ハ之ニ殉ジタル者ニ對シテハ、其ノ給付ノ內容ヲ一段ト充實スルコト致シマシタ、又新タニ遺族年金及葬祭料制度ヲ創設シテ遺族援護ノ強化ヲ圖リ、船員ヲシテ後顧ノ憂ナク挺身敢闘シ得ルヤウ、諸般ノ配意ヲ行ツタデアリマス、其ノ外重要ナルコトハ、更ニ戰時特例ト致シマシテ、船員優遇ノ爲特段ノ考慮ヲ拂ツタ點デアリマス、即チ愈々深刻苛烈ノ度ヲ

加ヘ來リマシタ海上輸送戰ニ於テ、或ハ敵ノ潜水艦ノ襲撃ヲ受ケ、或ハ敵機ノ爆撃ノ危険ニ曝サレナガラ、前線勇士ヘノ海上補給ニ、又ハ銃後ノ生産力増強物資ノ輸送ニ、決死敢闘スル船員ノ努力ニ報イ、其ノ士氣ヲ愈々昂揚致シマス爲ニ、從來ノ戰時加算率ヲ更ニ大幅ニ増率シ、之ニ要スル費用ヲ國庫ニ於テ負擔スルコト致シマシタ、是ト共ニ戰時危險ニ起因スル障害、死亡等ニ關スル保險給付ノ費用ニ付、戰時危險ノ特殊性ニ鑑ミ、之ヲ保險料ト切離シ是亦國庫ノ負擔トシ、更ニ又船員援護ノ徹底ヲ期スル爲、苟モ大東亞戰爭勃發後、戰時危險ノ爲ニ發疾トナリ又ハ死亡致シマシタ者ニ對シテハ、總テ障害年金、遺族年金等ノ給付ヲ行フコトトシ、其ノ費用モ亦之ヲ國庫ニ於テ負擔スルコト爲ス等、船員ノ優遇ニ極力努メマシタ次第デアリマス、以上改正案ノ要旨ヲ申上ゲマシタ、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ船員保險法中改正法律案ハ、地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案外三件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(公爵徳川圀顯君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川顯順君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵徳川顯順君) 日程第二、所得稅法外十六法律中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、石渡大藏大臣

所得稅法外十六法律中改正法律案 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和二十年二月三十日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長 公爵徳川顯順殿

所得稅法外十六法律中改正法律案

第一條 所得稅法中左ノ通改正ス

第八條、株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社、脱退若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ト看做シ本法ヲ適用ス

第十條第一項第三乙種中「其ノ他」ノ下ニ「清算取引所得以外」ヲ加ヘ同項第七但書ヲ削ル

第十二條第一項第四號但書ヲ削リ同項第十號中「前年中ノ總收入金額」ヲ「取引一決濟毎ノ收入金額」ニ改ム

第二十條ノ二 清算取引所得ハ百圓ニ滿タザルトキハ分類所得算ヲ課セス

第二十一條第一項ヲ「如ク改ム」分類所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一 不動產所得 百分ノ二十三

第一 配當利子所得 百分ノ十六

一 國債ノ利子 百分ノ十六

二 國債以外ノ公債ノ利子、元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル社債ノ利子並ニ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配 百分ノ二十二

三 其ノ他 百分ノ二十三

乙種 百分ノ二十三

第三 專業所得 百分ノ二十一

甲種及乙種 百分ノ十八

丙種 百分ノ十八

第四 勤勞所得 百分ノ十八

第五 山林ノ所得 百分ノ十八

所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

二千圓以下ノ金額 百分ノ十八

二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十三

四千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十三

二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十三

四萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十八

十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ六十三

第六 退職所得 所得金額ヲ支拂者ノ異ル毎ニ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

二萬圓以下ノ金額 百分ノ十八

二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十八

十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十三

五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ六十三

第七 清算取引所得 所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

一萬圓以下ノ金額 百分ノ五

一萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十

五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十

同條第二項中「百分ノ二十一ハ之ヲ百分ノ十九ヲ百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ二十一」ニ改メ同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

投資信託ノ利益ニ付テハ第一項中配當利子所得中第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ二十一トス

同條第四項中「及前項ニ規定スル預金ノ利子並ニ」ヲ「銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、産業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及」ニ改ム

百分ノ十五及前項ニ規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ十七ニ改ム

同條第六項中「百分ノ十八ハ之ヲ百分ノ十五ヲ百分ノ二十一ハ之ヲ百分ノ十八」ニ改ム

第二十二條第一項中「百分ノ二十三ヲ百分ノ二十六ニ、百分ノ二十九ヲ百分ノ三十二ニ、百分ノ三十五ヲ百分ノ三十九ニ、百分ノ三十九ヲ百分ノ四十三ニ」ニ改ム

同條第三號ヲ削除ス

同條第二項中「百分ノ三十二」ヲ「百分ノ三十五」ニ改ム

第二十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ

同項第三號ヲ削除ス

同條第二項中「百分ノ三十二」ヲ「百分ノ三十五」ニ改ム

第二十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ

同條第二項中「第八號」及同條第五項中「第八號及」ヲ削ル

第三十二條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十三條第一項但書ヲ削ル

第三章中第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

依リ命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ

同條第二項中「第八號」及同條第五項中「第八號及」ヲ削ル

第三十二條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十三條第一項但書ヲ削ル

第三章中第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

依リ命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ

同條第二項中「第八號」及同條第五項中「第八號及」ヲ削ル

第三十二條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十三條第一項但書ヲ削ル

第三章中第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

依リ命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ

同條第二項中「第八號」及同條第五項中「第八號及」ヲ削ル

第三十二條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十三條第一項但書ヲ削ル

第三章中第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スモ不足アルトキニ限り命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

依リ命令ヲ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條第一項中「乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得」ヲ「若ハ乙種ノ退職所得」ニ改メ同條ノ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ左ノ一項ヲ加フ



ニ於テニ改ム  
第十五條 削除  
第十六條 第一項第一號中「百分ノ三十」ヲ「百分ノ三十三」ニ、「百分ノ四十五」ヲ「百分ノ四十八」ニ改メ同項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 清算所得  
清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス  
積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額  
百分ノ二十六  
其ノ他ノ金額  
百分ノ四十八

第三條 特別法人稅法中左ノ通改正ス  
第五條 第一項及第二項中「及積立金額ノ合計金額」並ニ同條第三項及第四項ヲ削ル  
第九條 特別法人稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス  
一 各事業年度ノ剩餘金  
百分ノ二十二  
二 清算剩餘金  
清算剩餘金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス  
積立金ヨリ成ル金額  
百分ノ二十六  
其ノ他ノ金額  
百分ノ四十二

所得稅ヲ課セラレザル法人ノミヲ以テ組織スル特別ノ法人ノ清算剩餘金ニ對スル特別法人稅ハ前項ノ規定ニ拘ラズ清算剩餘金中積立金ヨリ成ル金額以外ノ金額ノ百分ノ二十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス  
第九條ノ二 本法ニ於テ積立金トハ積立金其ノ他名義ノ何タルト問ハズ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金中其ノ留保シタル金額

ヲ謂フ  
特別法人稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ  
第四條 營業稅法中左ノ通改正ス  
第十二條 第三項中「三年間」ノ下ニ「(法人ニ付テハ當該事業ヲ開始シタル事業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日ヨリ三年以内ニ終了スル事業年度ニ於テ)」ヲ加フ  
第十五條 第二項中「八月一日ヨリ三十一日限ヲ九月一日ヨリ三十日限ニ、一月一日ヨリ三十一日限ヲ二月一日ヨリ末日限」ニ改ム  
第五條 臨時利得稅法中左ノ通改正ス  
第二十六條 第二項ヲ左ノ如ク改ム  
個人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得  
第一期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限  
第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六條 地租法中左ノ通改正ス  
第十一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム  
地租ノ納期ハ毎年十一月一日ヨリ三十日限トス  
第七十一條 第二項中「次」ヲ削ル  
第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル土地ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ十圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ  
第七十三條ノ二中「各納期ニ於ケル」ヲ削ル  
第七十四條 第一項中「納期毎ニ其ノ」ヲ削ル  
第七條 通行稅法中左ノ通改正ス  
第二條 第一項中「二錢五厘」ヲ「四錢」ニ、「一錢二厘五毛」ヲ「二錢」ニ、「二厘五毛」ヲ「五厘」ニ、同條第二項中「二錢」ヲ「二十錢」ニ、「六錢」ヲ「十錢」ニ改ム  
第二條ノ二 第一項中「五十錢」ヲ「八十錢」ニ、「二十五錢」ヲ「四十錢」ニ、「五錢」ヲ「十錢」ニ改ム  
第八條 酒稅法中左ノ通改正ス  
第二十七條 第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム  
酒稅ノ稅率左ノ如シ

一 洋酒  
第一級 一石ニ付 千二百四十五圓  
第二級 一石ニ付 五百八十五圓  
二 合成清酒  
一石ニ付 五百四十五圓  
三 濁酒  
一石ニ付 三百五十圓  
四 白酒  
一石ニ付 千五十圓  
五 味淋  
一石ニ付 七百五十五圓  
六 燒酎  
一石ニ付 五百七十圓  
七 麥酒  
一石ニ付 四百五十圓  
八 果實酒  
第一級 一石ニ付 七百五十圓  
第二級 一石ニ付 四百圓  
第三級 一石ニ付 三百三十圓

第九雜酒  
第一級 一石ニ付 千二百圓  
第二級 一石ニ付 千圓  
第三級 一石ニ付 千圓  
第四級 一石ニ付 千圓  
第五級 一石ニ付 千圓  
第六級 一石ニ付 千圓  
第七級 一石ニ付 千圓  
第八級 一石ニ付 千圓  
第九級 一石ニ付 千圓

命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超エアルコール分五十度ヲ超エザル酒類(麥酒ヲ除ク)ニ付テハ前項及第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ金額ヲ命令ヲ以テ定ムルアルコール分(指定アルコール分)ト稱ス以下同ジ)ノ度數ヲ以テ除シテ得タル金額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ヲ指定アルコール分ヲ超ユル一度毎ニ前項ノ規定ニ依リ酒稅額ニ加算ス  
同條第三項中「三十六圓」ヲ「五十三圓」ニ改ム  
第二十七條ノ二中「百分ノ三百」ヲ「百分ノ四百」ニ改ム  
第二十七條ノ三ヲ削リ第二十七條ノ四ヲ第二十七條ノ三トス  
第三十五條中「第二十七條ノ三」規定スル酒類ト其ノ他ノ酒類トニ區分シテヲ削ル  
第六十二條 削除  
第六十三條 第一項中「前條」及「酒稅輕減額若ハ交付金額」同條第二項中「前條第一項」並ニ同條第三項中「及前條第二項」ヲ削ル  
第六十六條中「第六十二條第一項」ヲ削ル  
第六十七條中「第六十條乃至第六十三條」ヲ「第六十條第六十一條第六十三條」ニ改ム  
第八十三條 第一項第一號中「二百八十五圓」ヲ「五百三十圓」ニ、「二百十四圓」ヲ「四十三圓」ニ、同項第二

號中「二百八十五圓」ヲ「五百十五圓」ニ、「十七圓」ヲ「二十五圓」ニ、同條第三項中「第三級」ヲ「第一級」ニ改ム  
第八十三條ノ二ヲ削ル  
第八十四條 第一項中「三百二十八圓」ヲ「五百五十八圓」ニ、「十九圓五十錢」ヲ「二十六圓五十錢」ニ、同條第三項中「第一項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル  
第九條 遊興飲食稅法中左ノ通改正ス  
第二條 第一項第三號中「遊興飲食」ノ下ニ「又ハ宿泊(洋式)旅館以外ノ旅館ニ於ケル宿泊」ニ付テハ飲食ヲ含ム以下同ジ)ヲ、同項第五號中「前各號」ノ下ニ「及第七號」ヲ加ヘ同項第六號中「旅館ニ於ケル宿泊」料金ヲ「洋式」旅館ニ於ケル宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ除ク」ニ改メ同項左ノ一號ヲ加フ  
七 洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ除ク  
イ 命令ヲ以テ定ムル一人一泊ノ料金(以下普通宿泊料ト稱ス)ガ七圓ニ滿タザル宿泊 料金ノ百分ノ二十  
ロ 普通宿泊料ガ十二圓ニ滿タザル宿泊 料金ノ百分ノ四十  
普通宿泊料ガ十二圓以上

ノ宿泊 料金ノ百分ノ七十  
一人一泊ノ宿泊ノ料金中普通  
宿泊料ヲ超スル金額ニ付テハ百  
分ノ十ヲ加算シタル稅率ニ依ル  
同條第二項中「前項」ヲ「第一項」  
ニ、「五圓ニ滿タザルモノ」ニ付テハ  
「十圓ニ滿タザルモノ」ニ付テハ「二  
改メ同項ニ左ノ三號ヲ加フ」  
六 一人一回六圓ニ滿タザルモ  
ノ 一人一回ニ付 四圓  
七 一人一回八圓ニ滿タザルモ  
ノ 一人一回ニ付 五圓五十  
錢  
八 一人一回十圓ニ滿タザルモ  
ノ 一人一回ニ付 七圓五十  
錢  
同條第三項中「前二項」ヲ「第一項  
及第二項」ニ改メ同條第一項ノ次  
ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ洋式ノ旅館ハ命令ヲ以テ  
之ヲ定ム

同數、定期又ハ貸切ニテ入場  
ノ契約ヲ爲シタルモノ  
入場料ノ百分ノ百五十  
第二種ノ場所  
籠球場、スケート場 第二種第  
三號ノ場所 入場料ノ百分ノ百  
麻雀場 入場料ノ百分ノ百  
五十  
ゴルフ場 入場料ノ百分ノ二  
百  
第十一條 骨牌稅法中左ノ通改正ス  
第五條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌  
稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納  
付シテ骨牌ノ包裹ニ納稅濟證印  
ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フル  
コトヲ得  
第六條中「貼用印紙」ノ下ニ「又ハ  
納稅濟證印」ノ印影ヲ加フ  
第九條及第十條中「貼用ナキ」ノ下  
ニ「若ハ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケサ  
ル」ヲ加フ  
第十五條第一項及第十六條第一項  
中「貼用ナキ」ノ下ニ「又ハ納稅濟  
證印ノ押捺ヲ受ケサル」ヲ加フ  
第十二條 臨時租稅措置法中左ノ通  
改正ス  
第一條中「田畑地租」ヲ削リ「課稅  
標準ノ計算」ノ下ニ「若ハ其ノ徵  
收」ヲ加フ  
第一條ノ三第一項中「三年間」ノ下  
ニ「(法人ニ付テハ設備ヲ増設シタ  
ル事業年度及其ノ翌事業年度開始  
ノ日ヨリ三年以内ニ終了スル事業  
年度ニ於テ)」ヲ、同條第二項中「三  
年間」ノ下ニ「(法人ニ付テハ製造  
ヲ開始シ又ハ設備ヲ増設シタル事  
業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日  
ヨリ三年以内ニ終了スル事業年度  
ニ於テ)」ヲ加フ  
第一條ノ四中「利益」ヲ「利得」ニ改  
メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

入 其ノ他命令ヲ以テ定ムルモ  
ノ  
第一條ノ八中「百分ノ十九ヲ百分  
ノ十五」ヲ「百分ノ二十二ヲ百分ノ  
十八」ニ改ム  
第一條ノ九中「百分ノ五」ヲ「百分  
ノ六」ニ改ム  
第一條ノ十中「百分ノ四乃至百分  
ノ五」ヲ「百分ノ六乃至百分ノ七」ニ  
改ム  
第一條ノ十四中「百分ノ十九ヲ百  
分ノ十六」ヲ「百分ノ二十二ヲ百分  
ノ十九」ニ、「百分ノ三十六ヲ百分ノ  
三十三」ヲ「百分ノ三十九ヲ百分ノ  
三十六」ニ改ム  
第一條ノ十七 法令、法令ニ基テ  
命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹  
旋ニ依リ企業整備ノ必要其ノ他  
命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ昭  
和二十一年三月三十一日迄ニ合  
併又ハ解散シタル法人ノ清算所  
得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ  
法人稅法第十六條ニ規定スル稅  
率百分ノ二十六ヲ百分ノ十三、  
百分ノ四十八ヲ拂込資本金額百  
萬圓以下ノ法人ニ付テハ百分ノ  
二十七、拂込資本金額百萬圓ヲ  
超スル法人ニ付テハ百分ノ三十  
二トシタル場合ノ差減額ニ相當  
スル法人稅ヲ輕減ス  
第一條ノ十八中「昭和二十年」ヲ  
「昭和二十一年」ニ改ム  
第一條ノ十九 法令、法令ニ基テ  
命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹  
旋ニ依リ法人ノ積立等ヲ以テ爲シ  
タル利益ノ配當ガ株式ノ拂込又ハ  
出資ニ充テラレタル場合ニ於テハ當  
該利益ノ配當ニ付テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ其ノ十分ノ五ヲ控除シ  
タル金額ニ依リ所得稅ヲ賦課ス  
第一條ノ二十中「昭和二十年」ヲ  
「昭和二十一年」ニ改メ同條ニ左ノ

一項ヲ加フ  
前項ノ規定ハ法令、法令ニ基テ  
命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹  
旋ニ依リ昭和十九年一月一日以  
後昭和二十一年三月三十一日迄  
ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ  
以テ定ムル事由ニ因リ營業以外  
ノ事業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止  
シタル個人ノ當該事業ヨリ生ズ  
ル所得ニ付テハ準用ス  
第一條ノ二十一中「昭和二十年」ヲ  
「昭和二十一年」ニ、「營業」ヲ「事  
業」ニ改メ「輕減又ハ免除ス」ノ下  
ニ「徵用ニ因リ退職シタル者ノ退  
職前ニ支拂ヲ受ケタル俸給、給料、  
賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與  
ニ付昭和二十年分以降ノ乙種ノ勤  
勞所得ニ對スル分類所得稅及綜合  
所得稅亦同ジ」ヲ加フ  
第一條ノ二十二中「昭和十九年」ヲ  
「昭和二十年」ニ、「昭和二十年」ヲ  
「昭和二十一年」ニ、「十分ノ二」ヲ  
「十分ノ三」ニ改メ「不動産上ノ權  
利ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含  
ム」ノ下ニ「以下同ジ」ヲ加ヘ同條  
ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ場合ニ於テ不動産又ハ不  
動產上ノ權利ノ讓渡ガ防空法第  
五條ノ十ノ規定ニ基テ命令ニ依  
ルモノナルトキハ當該讓渡ニ因  
リ生ズル利得ニ付テハ命令ノ定  
ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ免除  
ス  
第一條ノ二十三第一項中「昭和十  
九年」ヲ「昭和二十年」ニ改ム  
第一條ノ二十五第一項中「十分ノ  
三」ヲ「十分ノ五」ニ改ム  
第一條ノ二十六第一項中「及前二  
年分」及「平均額」ヲ削リ「十分ノ  
二」ヲ「十分ノ三」ニ、「十分ノ四」ヲ  
「十分ノ六」ニ、同條第二項中「三  
萬圓以上ノ者又ハ其ノ年中ノ營業

ノ所得金額ガ其ノ年分ノ營業ノ所  
得ヲ決定金額」ヲ「五萬圓」ニ改メ  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第一項及第二項ノ規定ハ個人ノ  
其ノ年中ノ乙種ノ事業所得ニ該  
當スル所得ノ金額ガ其ノ年分ノ  
乙種ノ事業所得ノ決定金額ニ對  
シ五割以上減少シタル場合ニ付  
テハ準用ス  
第一條ノ二十九中「三規定スル」ヲ  
「又ハ臨時資金調整法ノ規定ニ依  
リテ爲ス」ニ改ム  
第一條ノ三十二 法人ノ納付シタ  
ル罰金又ハ科料(通告處分ニ依  
リ納付シタル罰金又ハ科料ニ相  
當スル金額ヲ含ム)ハ法人稅法  
ニ依リ所得、營業稅法ニ依リ純  
益及臨時利得稅法ニ依リ利益ノ  
計算上之ヲ損金ニ算入セズ  
第一條ノ三十三中「所得稅法」ヲ  
削ル  
第一條ノ三十五中「昭和二十年」ヲ  
「昭和二十一年」ニ、「第九條ノ規  
定」ニ拘ラズ百分ノ十二・五ノ稅率  
ニ依リ特別法人稅ヲ賦課ス」ヲ「第  
九條第一項ニ規定スル稅率百分ノ  
二十六ヲ百分ノ十三、百分ノ四  
二ヲ百分ノ二十二、同條第二項ニ  
規定スル稅率百分ノ二十二ヲ百分  
ノ十二・五トシタル場合ヲ差減額ニ  
相當スル特別法人稅ヲ輕減ス」ニ  
改ム  
第二條 命令ヲ以テ定ムル法人ガ  
各事業年度ノ所得及資本ニ對ス  
ル法人稅、各事業年度ノ純益ニ  
對スル營業稅又ハ臨時利得稅ニ  
付爲スベキ法人稅法第十八條、  
營業稅法第十五條又ハ臨時利得  
稅法第十五條ノ申告ノ期限ハ之  
ヲ每事業年度決算確定後六十日  
以内トス  
第三條 前條ニ規定スル法人ハ命

令ノ定ムル所ニ依リ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅、臨時利得稅ヲ前條ノ規定ニ依リ申告同時ニ政府ニ納付スベシ

第四條 第二條ニ規定スル法人前條ノ規定ニ依リ法人税、營業稅若ハ臨時利得稅ヲ納付セザル場合同又ハ其ノ納付シタル稅額ガ納付スベキ稅額ニ對シ不足スル場合ニ於テハ納付スベキ稅額又ハ不足スル稅額ニ命令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ加算シテ之ヲ徵收ス

第五條 法人稅法第十四條及營業稅法第九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ臨時利得稅ノ額ニ加算シタル金額ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六條 納稅施設法第七條乃至第九條ノ規定ハ第二條ニ規定スル法人ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條乃至第十二條 削除

第十三條 同一人ニ付第一條ノ二十及第一條ノ二十六ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ輕減又ハ免除額ノ多額ト爲ルベキ一ノ規定ヲ適用ス

第十三條ノ二ヲ削リ  
第二十二條ノ三中「昭和二十年」ヲ「昭和二十一年」ニ改ム

第十三條 所得稅法人稅内外地關係法中左ノ通改正ス

第一條中「乙種ノ退職所得並ニ清算取引所得」ヲ「並ニ乙種ノ退職所得」ニ改ム

第十四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ同法第十條ニ規定スル甲種若ハ乙種ノ事業所得又ハ同法第二十八條中ニ規定スル所得中ニ

朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ第一種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル報酬若ハ料金又ハ株式ノ清算取引ニ因ル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅額ヨリ當該第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除ス

第二十二條第一項中「及所得稅法第二十一條第三項ニ規定スル預金ノ利子並ニ」ヲ「銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、產業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及」ニ改ム

第十四條 戰時災害國稅減免法中左ノ通改正ス

第二條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算、調査及決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ爲シ又ハ戰時災害ニ因ル被害者ノ爲スベキ國稅ニ關スル支拂調書、計算書其ノ他命令ヲ以テ定ムル書類ノ提出ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 納稅施設法中左ノ通改正ス

第一章第六條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第六條ノ二 政府ハ納稅團體ノ管理スル納稅資金又ハ納稅團體ニ

對シ國稅ノ納付ヲ委託シテ交付シタル金錢等ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル團體員ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ國稅ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第六條ノ三 政府ハ前條第一項ノ規定ニ依リ國稅ヲ輕減又ハ免除シタル場合ニ於テ同項ニ規定スル亡失ガ納稅團體ノ役員、使用人等ノ故意又ハ過失ニ因ル認メテ委任委員會ノ諮問ヲ經テ此等ノ者ニ對シ輕減又ハ免除シタル國稅額ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ノ賠償ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ賠償金ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ命令又ハ賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ訴訟ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

納稅資金亡失責任審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條ノ四 第六條ノ二並ニ前條第一項及第二項ノ規定ハ都道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル公共團體ノ租稅公課ニ付テラ准用ス此ノ場合ニ於テ政府トアルハ都道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル公共團體トシ納

稅資金亡失責任審査委員會ノ諮問トアルハ都道府縣參事會、市參事會、町村會其ノ他之ニ準ズルモノノ議決トス

前項ニ於テ准用スル前條第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ處分ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償ニ在リテハ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ賠償ヲ命ゼラレタル者賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償金ニ在リテハ行政裁判所ニ出訴シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償金ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ裁決ニ付テハ市町村長其ノ他之ニ準ズル者ヨリ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條 輕金屬製造事業法中左ノ通改正ス

第七條第一項中「五年以内」ヲ「十年以内」ニ改ム

第十七條 國民貯蓄組合法中左ノ通改正ス

第四條ノ二 市町村農業會其ノ他第二條第四號ノ團體ノ貯金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ラザルモノト雖モ前條ノ規定ニ適用ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ルモノト看做ス

第十八條 本法ハ昭和二十年四月一日

日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條及第十五條ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及個人ノ總所得ニ對スル所得稅並ニ個人ノ營業稅及臨時利得稅ニ付テハ昭和二十年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

法人ノ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅及臨時利得稅ニ付テハ昭和二十年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ同年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ法人ノ昭和十九年九月二十日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

臨時租稅措置法第二條乃至第六條ノ改正規定ハ法人ノ昭和二十年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ニ對スル特別法人稅ニ付テハ昭和二十年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算剩餘金ニ對スル特別法人稅ニ付テハ同年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十條 本法施行前ニ於ケル株式ノ消却、退社、脫退、出資ノ減少、解散又ハ合併ニ因ル從前ノ所得稅法第八條ニ規定スル利益ノ配當及剩餘金ノ分配並ニ本法施行前ニ於ケル株式ノ清算取引ニ因ル所得ニ

對スル所得稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ當該利益ノ配當及剩餘金ノ分配ニ對スル綜合所得稅並ニ當該清算取引所得ニ對スル分類所得稅ノ徵收ニ付テハ改正後ノ所得稅法第七十三條ニ規定スル納期ニ依ル

本法施行前ニ於ケル合併又ハ解散ニ因ル法人ノ清算所得ニ對スル法人稅又ハ特別ノ法人ノ清算剩餘金ニ對スル特別法人稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十一條 本法施行前ニ於テ從前ノ規定ニ依リ酒稅ノ輕減又ハ交付金ノ交付ヲ受ケ又ハ受クベカリシ酒類ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行後其ノ用途ヲ變更スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

酒類ノ製造者若ハ販賣業者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ各種類ヲ通ジ合計四斗以上ノ酒類ヲ所持スル場合及其ノ所持スル酒類ガ合計四斗ニ滿タザルモ命令ヲ以テ定ムル酒類ガ合計一斗以上ナル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ其ノ所持スル酒類ニ對シ酒稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ改正後ノ酒稅法第二十七條、第二十七條ノ二、第八十三條又ハ第八十四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ト從前ノ酒稅法第二十七條乃至第二十七條ノ三又ハ第八十三條乃至第八十四條ノ規定ニ依リ算出シタル

ル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ製造者若ハ販賣業者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ所持スル酒類ニ付從前ノ酒稅法第二十七條ノ三ニ規定スル酒類ト其ノ他ノ酒類トニ區分シ種類、級別及アルコール分毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

本法施行ノ際製造場ニ現存スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノニ付テハ酒稅法第三十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ移出シタルトキ酒稅ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ第二項後段ニ規定スル稅額ヲ以テ其ノ稅額トス

〔國務大臣石渡莊太郎君登壇〕

○國務大臣(石渡莊太郎君) 只今議題トナリマシタ所得稅法外十六法律中改正法律案ニ付キマシテ説明致シタイト存ジマス、今ヤ重大ナル時局ニ際シ、臨時軍事費其ノ他決戦下避クベカラザル諸經費ハ、相當多額ニ上ル見込デアリマシテ、之ニ對處シテ國庫收入ノ増加ヲ圖ルノ要アリマスト共ニ、最近ニ於ケル通貨金融等ノ諸情勢ニ顧ミマスレバ、國民購買力ヲ吸收シ、戰時經濟ノ運営ヲ圓滑ナラシムル方途ヲ講ズルノ必要ガアルト思フノデアリマス、支那事變勃發以來、屢次ノ増稅ニ依リ、國民ノ租稅負擔ハ著シク増加致シテ居ル

ノデアリマスガ、此ノ際重ネテ増稅ヲ行フコトハ、叙上ノ理由ニ依リ誠ニ已ムヲ得ザルモノト認ムル次第デアリマス、而シテ苛烈ナル現職局下ニ於キマシテ、且稅制ノ根本的改組ヲ行ヒテヨリ未ダ數年ヲ經ザル今日、租稅制度ニ改廢ヲ加フルコトナク、現行制度ニ簡素且重點的ニ増率ヲ行フヲ適當ト認メマシテ、分類所得稅、法人稅、特別法人稅、通行稅、酒稅及入場稅ニ限リ増徵ヲ行フコトト致シタノデアリマス、尙本増稅ノ實施ト共ニ、戰時下緊要ナル諸政策ノ遂行ニ資スル爲租稅ノ減免ヲ行ヒ、或ハ官民相互ノ手數ノ省略ノ爲、或ハ非常ノ際ニ於ケル稅務ノ運営ニ支障ナカラシメムガ爲、ソレト必要ナル稅法ノ改正ヲ行フコトト致シタノデアリマス、今増稅案ノ内容ヲ説明致シマスレバ、先ヅ分類所得稅デアリマスガ、稅率ヲ大體百分ノ三引上グルコトト致シタノデアリマス、尙免稅點及基礎控除、並ニ扶養家族及生命保險料ノ控除ハ、現行通り据置クコトト致シマシタ、是等分類所得稅ノ稅率引上ニ依リマシテ、平年度八億四千餘萬圓ノ增收ト相成ル見込デアリマス、法人稅ニ付キマシテハ、個人ノ分類所得稅ノ引上ニ照應致シマシテ、法人ノ所得ニ對スル稅率ヲ百分ノ三引上ゲ、特別法人稅ノ稅率ニ付テモ百分ノ二引上グルコトニ致シタノデアリマス、之ニ依リ法人稅及特別法人稅ヲ通ジ、平年度一億二千九百餘萬圓ノ增收ト相成

ル見込デアリマス、通行稅ニ付キマシテハ、現行ノ課稅基礎ノ下ニ其ノ稅率ヲ倍額程度増徵ヲ行フコトト致シタノデアリマシテ、之ニ依ツテ通行稅ハ平年度一億三百餘萬圓ノ增收ト相成ル見込デアリマス、次ニ酒稅ニ付申述ベマスレバ、清酒ニ付キマシテハ、生産配給ノ見地ヨリシテ、第一級酒、第二級酒ヲ合併シテ之ヲ第一級酒トシ、一石ニ付千二百四十五圓ノ稅率ニ引上ゲ、又現在ノ第三級酒ハ之ヲ第二級酒トシ、一石ニ付其ノ稅率ヲ五百八十五圓ニ引上ゲ、其ノ他ノ酒類ニ付テモ之ニ準ジテ適當ニ稅率ヲ引上ヲ行フコトト致シタノデアリマス、尙價格特配酒ハ各般ノ事情ヲ考慮致シマシテ、之ヲ廢止スルコトト致シタノデアリマス、以上ノ改正ニ依リ、酒稅ハ平年度七億四百餘萬圓ノ增收ト相成ル見込デアリマス、入場稅ニ付キマシテハ、其ノ消費ノ性質ニ顧ミマシテ、此ノ際其ノ稅率ヲ引上グルヲ適當ト認メ、大體倍額ノ增收ヲ行フコトト致シタノデアリマス、其ノ平年度ノ增收見込額ハ一億三百餘萬圓ト相成ル見込デアリマス、次ニ本増稅ト共ニ行ハムトスル稅法ノ改正ニ付、其ノ大要ヲ説明致シタイト存ジマス、第一ハ、企業ノ再編成、資金ノ蓄積等、時局下緊要ナル諸政策ノ圓滑ナル遂行ニ資スル爲、租稅ノ減免ヲ行ハムトスルモノデアリマス、即チ企業整備等ノ場合ニ於ケル所得稅、法人稅、營業稅等ノ輕減又ハ免除ノ特例ヲ、

一年間延長スルト共ニ、其ノ適用範圍ヲ擴張シ、又政府ノ指導斡旋ニ依リ法人ガ合併、解散ヲ爲シタル場合ニ於テ、課稅ノ輕減範圍ヲ擴張スルト共ニ、積立金ヲ株式ノ拂込ニ振替ヘタル場合ニ付テモ、課稅輕減ノ途ヲ開カムトスルノデアリマス、其ノ外建物ノ強制開閉ノ場合ニ於ケル讓渡利得ニ對スル課稅ノ免除、山林ノ増伐所得ニ對スル課稅輕減ノ擴張、長期貯預金ノ利子ニ對スル分類所得稅ノ輕減ノ擴張、輕金屬製造事業設備ノ新設又ハ増設ノ場合ニ於ケル法人稅ヲ免除スベキ期限ノ延長等ガ、其ノ主ナル改正デアリマス、第二ハ、官民相互ノ手數ヲ省略スル爲、租稅ノ賦課徵收ノ簡素化及合理化ニ關スルモノデアリマス、其ノ主ナルモノニ付テ申上ゲマスレバ、株式ノ清算取引所得ニ付テハ、差金決済ノ都度源泉課稅ノルコトニ改メ、又法人ノ合併、解散ノ場合ニ於テ、株主、社員ガ拂込額ヲ超過シテ交付ヲ受ケタル金額ヲ配當ト看做シテ所得稅ヲ課稅スル制度ヲ廢止シテ、之ヲ清算所得ニ對スル法人稅等ニ統合シテ課稅スルコトトシタル外、小額ノ地租及小額ノ家屋稅ノ免稅範圍ヲ擴張シ、又所得稅及個人ノ臨時利得稅及地租ノ納期ノ回数ヲ減少スルコトト致シタノデアリマス、第三ハ、現下ノ緊迫セル情勢ニ對處シ、稅務ノ圓滑ナル運営ヲ期スル爲ノ改正デアリマス、先ヅ法人ニ付申告納稅制度ヲ創設シタコトデアリマス、從來法人ニ對スル法人稅、臨時利

得税等ノ決定ニ付テハ、法人ノ決算確  
定後自然相當ノ期間ヲ經過シ、一面國  
庫收入ノ遲延ヲ來タスト共ニ、他面會  
社經理上不和合ノ場合尠カラザリシニ  
顧ミ、今回資本金一定額以上及び特定  
ノ法人ニ付テハ、決算確定後六十日以  
内ニ、法人税、營業税及臨時利得税ニ  
付、自ラ税額ヲ算定シテ納税スルコト  
ニ改メタノデアリマス、後日稅務官廳  
ニ於テ調査ノ上、法規ニ照シ、納付過  
ノモノハ之ヲ還付シ、足ラザルモノハ  
之ヲ追徴スルコトニ致シタイト存ジマ  
ス、次ニ戰時災害ノ場合ニ於ケル租稅  
ノ輕減、免除等ニ付テハ、既ニ法令ノ  
制度ヲ見テ居ルノデアリマスガ、最近  
ニ於ケル戰局ノ進展ニ伴ヒ、緊急已ム  
ヲ得ザル場合ニ對處スル規定ヲ整備シ、  
決戦下ニ於ケル稅務行政ノ圓滑ナル運  
營ニ資シタイト存ズルノデアリマス、  
其ノ他納稅團體ノ管理スル納稅資金等  
ノ亡失シタル場合ニ於ケル納稅者ニ對  
スル救濟規定ヲ整備スル等ノ改正ヲ行  
ハムトスルモノデアリマス、以上申述  
ベマシタ増稅ニ依リマシテ、平年度ニ  
於テ十八億八千餘萬圓、初年度タル  
昭和二十年年度ニ於テ十七億餘萬圓ノ  
増收ト相成ルノデアリマスガ、増稅ト  
共ニ實施致シマスル稅制改正ニ依リ、  
平年度ニ於テ七千二百餘萬圓ノ減收ト  
相成ルノデアリマスガ、初年度ニ於テ  
ハ二億二千餘萬圓ノ増收ヲ生ジマス  
ルノデ、結局今回ノ増稅及統制改正ヲ  
通ジマシテ、平年度十八億五百餘萬圓、

昭和二十年年度十九億二千三百餘萬圓  
ノ増收ト相成ル見込デアリマス、而シ  
テ昭和二十年年度ノ増收金額ハ一切鄂ゲ  
テ之ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、  
コトト致シテ居ルノデアリマス、何卒  
御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコ  
トヲ希望致ス次第デアリマス  
○子爵戸澤正己君 只今議題ト相成リ  
マシタ所得稅法外十六法律中改正法律  
案ハ、其ノ特別委員ノ數ヲ二十五名ト  
シ、議長ニ於テ其ノ委員ヲ指名セラレ  
ムコトノ動議ヲ提出致シマス  
○子爵秋田重泰君 贊成  
○議長(公爵徳川團順君) 戸澤子爵ノ  
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(公爵徳川團順君) 御異議ナイ  
ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致  
サセマス

〔宮坂書記官朗讀〕  
所得稅法外十六法律中改正法律案特  
別委員  
公爵徳川 家正君 侯爵細川 護立君  
侯爵筑波 藤鷹君 伯爵林 博太郎君  
子爵松平 乘統君 子爵西尾 忠方君  
子爵梅園 篤彦君 子爵安藤 信昭君  
子爵本多 忠晃君 下條 康麿君  
内田 重成君 長 世吉君  
男爵松平外與鷹君 男爵近藤 滋彌君  
男爵稻田 昌植君 男爵島津 忠彦君  
三浦 新七君 黒田 英雄君  
澤田 牛麿君 竹下 豐次君  
井坂 孝君 千石與太郎君

正力松太郎君 橋本辰二郎君  
佐々木長治君  
○議長(公爵徳川團順君) 日程第三、  
地方稅法及地方分與稅法中改正法律  
案、政府提出、衆議院送付、第一讀  
會 大達内務大臣  
地方稅法及地方分與稅法中改正法  
律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因  
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候  
也  
昭和二十年一月三十日  
衆議院議長 岡田 忠彦  
貴族院議長 公爵徳川團順殿

第二十四條第二項中「前項ノ」ヲ削  
リ「四十萬」ヲ「六十萬」ニ改ム  
第三十條第二項中「前項ノ」ヲ削リ  
「二萬五千」ヲ「三萬」ニ改ム  
第三十七條第二項中「前項ノ」ヲ削  
リ「八百」ヲ「二千」ニ改ム  
第四十七條第二項中「百分ノ九・九  
八」ヲ「百分ノ十・〇六」ニ改ム  
「百分ノ  
十・〇八」ヲ「百分ノ十・三二」昭和  
二十一年度ニ於テハ「百分ノ十・一  
四、昭和二十二年度ニ於テハ「百分  
ノ十・〇八」ニ、同條第三項中「百  
分ノ十・一八」ヲ「百分ノ十四・四  
〇」ニ改ム同項中「百分ノ十三・三二」  
ノ下ニ「昭和二十年度ニ於テハ「百  
分ノ十四・五六、昭和二十一年度ニ  
於テハ「百分ノ十七・九五」ヲ加フ  
第四十八條第二項及第三項ヲ左  
如ク改ム  
第六條第一項中「百分ノ十・〇六  
トアルハ昭和十七年度分ニ付テ  
ハ「百分ノ二十二・三五、昭和十八  
年度分ニ付テハ「百分ノ十九・四  
五、昭和十九年度分ニ付テハ「百  
分ノ十三・五六、昭和二十年度分  
ニ付テハ「百分ノ十六・二八、昭和  
二十一年度分ニ付テハ「百分ノ  
十二・二二、昭和二十二年度分ニ  
付テハ「百分ノ十三・三二、昭和二十  
三年度分ニ付テハ「百分ノ十一・一  
四、昭和二十四年度分ニ付テハ  
百分ノ十・〇八トス  
第六條第一項中「百分ノ十四・四  
〇トアルハ昭和十七年度分ニ付  
テハ「百分ノ五十、昭和十八年度  
分ニ付テハ「百分ノ三十一・二二、  
昭和十九年度分ニ付テハ「百分ノ  
二十二・二二、昭和二十年度分ニ付  
テハ「百分ノ十三・七八、昭和二十

第一條 地方稅法中左ノ通改正ス  
第六十六條第二項中「八圓」ヲ「十  
二圓」ニ、「六圓」ヲ「九圓」ニ、「四  
圓」ヲ「六圓」ニ改ム  
第二條 地方分與稅法中左ノ通改正  
ス  
第三條 第二項及第六條第一項中  
「百分ノ九九・八」ヲ「百分ノ十・〇  
六」ニ、「百分ノ十・一八」ヲ「百分  
ノ十四・四〇」ニ改ム  
第十條第一號中「百分ノ六十」ヲ  
「百分ノ六・三二」ニ、同條第二號中  
「百分ノ四十」ヲ「百分ノ三十七」ニ  
改ム  
第十六條第二項中「前項ノ」ヲ削リ  
「三十萬」ヲ「六十萬」ニ改ム  
第二十二條第一號中「各總人  
口」ヲ「各總割増人口」ニ改ム

一年度分ニ付テハ「百分ノ十四・  
三〇、昭和二十二年年度分ニ付テ  
ハ「百分ノ十四・五六トス  
附則  
本法ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ  
施行ス但シ第一條ノ規定ハ昭和二十  
年度分ヨリ之ヲ適用ス

〔國務大臣大達茂雄君登壇〕  
○國務大臣(大達茂雄君) 只今議題ト  
相成リマシタ地方稅法及地方分與稅法  
中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理  
由ヲ御説明申上ゲマス、御承知ノ通り  
昭和十五年ノ稅制改正以後ノ時局ノ進  
展ニ伴ヒマスル地方財政事情ノ變化ト  
財政需要ノ増嵩ニ對處シ、地方團體ヲ  
シテ極力不急事業ノ抑制、既定經費ノ  
節減等ヲ圖ラシムルト共ニ、年々必要  
財源ノ擴充供與ニ努メテ參ツタノデア  
リマスガ、最近ノ情勢ハ愈々地方負擔ノ  
激増ヲ來シ、又地方分與稅制度ノ經過  
年度終了ノ結果ト致シマシテ、地方財  
政調整上ニ支障ヲ及スモノガアリマス  
ルノデ、地方團體ヲシテ時局下其ノ活  
動ノ上ニ遺憾ナカラシムル爲、此ノ  
機會ニ於テ當面スル地方財政需要ニ即  
應スルヤウ、財源ノ擴充ト配分ノ適正  
ヲ圖ルノ必要アリト認メマシテ、今回  
地方稅法及地方分與稅法中差當リ必要  
ト認ムル諸點ニ付改正ヲ加ヘムトスル  
次第デアリマス、改正ノ第一點ハ、市  
町村民稅ニ付國民所得ノ狀況乃至市町  
村經營膨脹ノ現狀ニ鑑ミ、其ノ賦課額  
額ノ限度ヲ引上ゲルコトト致シマシテ、

地方稅法及地方分與稅法中改正法律案 第一讀會

官報號外 昭和二十年二月一日 貴族院議事速記第七號 地方稅法及地方分與稅法中改正法律案 第一讀會

之ニ依ツテ、財政需要充足ニ資セムトスルモノデアリマス、改正ノ第二點ハ、地方財源ノ減少ノ補填、及ビ新タニ増加スル地方財政需要ニ對スル財源ノ充足ヲ目途トシテ、配付稅ノ繰入率及分與率ヲ改訂スルコトヲ致シマシテ、地方財源ノ一部ヲ配付稅ニ於テ確保セムトスルモノデアリマス、其ノ第三點ハ、近時道府縣ノ財政狀況ハ、市町村ノソレニ比較致シマシテ漸次窮屈ニナリツ、アリマスルノデ、配付稅ノ道府縣分ト市町村分トノ割合ヲ改訂シテ、道府縣分ヲ若干増率スルコトヲ致シマシテ、道府縣及市町村ニ對スル財源附與ヲ、ソレノ其ノ財政需要ニ適合セシメムトスルモノデアリマス、改正ノ

第四點ハ、大都市、都市、町村間ノ財源ガ甚ダシク偏在スルノ狀況ニ在リマスノデ、現在大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ノ算定ニ當リマシテ、市町村配付稅總額ノ半額ヲ各總人口ニ按分スルコトニナツテ居リマスルノヲ、各總額増人口ニ按分スルコトニ改ムルコトヲ致シマシテ、其ノ間ノ配付稅ノ分配ヲ合理的ナラシメムトスルモノデアリマス、其ノ第五點ハ、人口少數ナル團體ノ財政狀況ハ、人口多數ナル團體ノソレニ比較致シマシテ、其ノ運籌概ネ困難ナル狀況ニ在リマスルノデ、道府縣、大都市、都市、町村ノ各割増人口算定ニ當リマシテ、人口ニ加算スル一定數ヲ改ムルコトヲ致シマシテ、各團體ニ對スル配付稅ノ分與ヲ一

層適正ナラシメムトスルモノデアリマス、以上改正案ノ要旨ニ付御說明ヲ申上ゲタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵大河内輝耕君 質問致シマス  
○議長(公卿徳川團藏君) 宜シウゴザイマス

〔子爵大河内輝耕君登壇〕  
○子爵大河内輝耕君 私人只今ノ地方稅ノコトニ付キマシテ政府ノ所信ヲ伺ヒタイノデ、是ハ大藏大臣カラ御答ヘ下サツテモ、内務大臣カラ御答ヘ下サツテモ、御便宜宜シイ、私ノ伺ヒタイノハ、都市生活ヲ政府ハドウ見テ居ルカト云フコトデ、生活ハ隨分苦シイデ、殊ニ都市生活ハ苦シウゴザイマス、只今ノ配給ニナツタ物ダケデ食ベ行ケルノナラ誠ニ樂デゴザイマスガ、決シテ是デハ參リマセヌ、其ノ點ヲ政府ハドウ見テ居ルカ、例ヘバ甚ダ卑近ナ例ヲ申上ゲマスガ、衣料ニシテモ、或ハ食物ニシマシテモ、例ヘバ配給ノ物デヤツテ行ケバ十圓カ、ル、ト斯ウ云フコトニシマスレバ、配給以外ノ生活ハ幾ラ位カ、ツテ居ルモノト御算定ニナツテ居リマスカ、是ハ地方應テモ御調べニナツタト云フコトヲ私伺ツテ居リマスカラ此ノ際伺ヒタイ、様子ヲ見テ見マス云フコト、買出シモ多イ、或ハ食堂ニ立ツテ居ル者モ大分居ル、何モ是ハ求メテ買出シニ行ク譯デモナケレバ、好キ好ンデアンナ

際イ所ニ立ツテ居ル譯デモナイ、配給ガ少イカラ仕方ガク立ツテ居ルノデ、此ノ費用ハナカノ馬鹿ニナラナイ、容易ナラザルモノダト思フ、是ハ配給ニ比シテ何倍位ニナル御算定アラウカ、政府ハドウ見テ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレカラ一ツハ地方分與金デ、是ガ大分殖エテ參リマシタ、確カ一億三千萬圓バカリ殖エテ居ル、是ハドウ云フ財源ニ御充テニナルノカ、只今地方費ガ大分足りナイカラサウ云フコトヲヤルノダト云フ御話デゴザイマスガ、ドウ云フ御目的デアルノカ、今少シ具體的ニ伺ヒタイ、此ノ二點ヲ伺ヒマス

〔國務大臣大達茂雄君登壇〕  
○國務大臣(大達茂雄君) 大河内子爵ノ御質問ニ對シテ御答ヘ致シマス、御言葉ノ通り色々ト物資ガ窮屈ニナツテ參リマスルニ連レマシテ、都市ニ於ケル一般ノ生活ガ段々ト窮迫ヲシテ參ツテ居リマス、只今配給物ニ依ツテ生活スル其ノ生活費ト、實際ソレレハヤツテ行ケナイノデ、實際所要ノ生活費トガドレ位ノ割合ニナルカト云フ御言葉デアリマシタガ、是ハ私ノ方デ調べタモノハアリマセヌ、唯各種ノ物資ノ間價格ト云フモノニ付キマシテハ、其ノ時其ノ時ニ、色々關係デ調べテ出テ居ルモノガアリマスガ、一般的ニ、配給生活ニ比較シテドレダケ餘計要ルカト云フ點ハ、ナカノ調査モ困難デアリマシテ關ベタモノハアリマセヌ、私

ト致シマシテハ、何ト致シマシテモ配給制度ヲ補充、確立致シマシテ、一面國民ノ艱苦ニ耐ヘル精神ヲ強鞫ニ致シマスルト共ニ、配給ニ依ツテ最低限ノ生活ヲシ得ルヤウニ、早く配給制度ヲ擴充致シマシテ、サウシナケレバ今日酒々タル間デアリマスカラ、是ハ銳意取締ヲ實行致シテ居リマスケレドモ、少額所得者ト致シマシテハ、配給ニ依ツテ最低限ノ生活ガ出來ルト云フコトガ確立シナケレバ、今後都市ニ於ケル大家ノ生活ハ、少額所得者ノ生活ハ、容易デナイト思フノデアリマス、此ノ上トモ關取締ノ履行、並ニ配給、殊ニ末端配給ノ機構ガ事實上確立致シマスヤウニ努力ヲ致シタイト存ジテ居リマス、ソレカラ今回地方ニ對シテ一億二千萬圓ノ配付稅ガ増額ニナツタ、ソレハ何ニ充當スルカト云フ御尋デアツタト存ジマスガ、是ハ詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲルコトデアリマスガ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、近來ハ市町村ノ方面ヨリモ、寧ろ道府縣財政ガ窮屈ニナツテ參ツタ實情ガアリマス、是ハ國民學校ノ教職員ニ關スル經費ガ、御承知ノ通り市町村ノ負擔カラ道府縣ノ負擔ニ移サレマシタシ、ソレカラ其ノ他青年學校等ニ付テモ同様ナコトガ行ハレマシタ結果ハ、寧ろ道府縣ノ方面ニ窮屈ニナツテ參リマシタ、左様ナ點デアリマス、只今ノ御答辯能ク分リマシタ、改メテ農商大臣ニ伺ヒマス、只今ノ内務大臣ヲ配給ニ依ツテヤツテ行カセルヤウニシタイト云フ御趣旨ハ、誠ニ結構ダト思ヒマス、ガ是ハ農商大臣ノ御努力ガ要ラウト思ヒマス、ソレニ付キマシテ、農商大臣モ只今ノ御説ニ御賛成デアルヤ否ヤ、當然ノコトデアルト存ジマスガ、其ノコトヲ伺ヒマス

〔國務大臣島田俊雄君登壇〕  
○國務大臣(島田俊雄君) 御答ヘ致シマス、成ルベク増産ヲ致シ、配給ニ依ツテ最低限ノ生活ガ維持出來ルヤウニ致シタイト考ヘマシテ、出來ルダケノ努力ヲシテ居ル次第デアリマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナツテ居リマス地方稅法及地方分與稅法中改正法律案ハ、所得稅法外十六法律中改正法律案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成  
○議長(公卿徳川團藏君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕  
○議長(公卿徳川團藏君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川順昭) 昨日衆議院

ヨリ送付セラレマシタ政府提出ニ係ル  
軍需金融等特別措置法案 臨時資金調  
整法并改正法律案 戦時金融庫法中  
改正法律案 生命保険中央會法案 損  
害保険中央會法案 臺灣銀行法中改正  
法律案ヲ此ノ際議事日程ニ追加シ、六  
案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議  
ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川順昭) 御異議ナ  
イ  
ト認メマス、石渡大蔵大臣

軍需金融等特別措置法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因  
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候  
也

昭和二十年一月三十日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長 公爵徳川順昭

軍需金融等特別措置法案

第一條 本法ハ軍需金融其ノ他ノ金  
融ノ圓滑進行ヲ圖ルト共ニ資金ノ效  
率ノ使用ヲ促進スルコトヲ目的トス

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ金融機關ニシテ軍需會社其ノ  
他命令ヲ以テ定ムル者(以下事業  
者ト稱ス)ニ對スル資金ノ融通ヲ  
爲スベキモノ(以下軍需金融機關  
ト稱ス)ヲ各事業者ニ付指定スル  
コトヲ得

金融機關ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム

第三條 前條第一項ノ指定アリタル  
トキハ軍需金融機關以外ノ金融機  
關ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク  
テ外事業者ニ對シテ資金ノ融通ヲ爲  
スコト 得ズ軍需金融機關其ノ資  
金ノ融通ヲ爲スベキ事業者(以下  
擔當事業者ト稱ス)以外ノ事業者ニ

對シ亦同ジ

第四條 軍需金融機關ハ擔當事業者  
ニ對シ當該事業者ノ事業ノ適當ナ  
ル遂行ニ必要ナル資金ヲ簡易過時  
ニ且當該事業者ノ資金ノ使用ヲ效  
率のナラシムル配意ノ下ニ融通ス  
ベシ

第五條 軍需金融機關ハ擔當事業者  
ヨリ資金ノ融通ノ申込ヲ受ケタル  
場合ニ於テ之ニ應ジ難シト認ムル  
トキハ遲滞ナク其ノ理由ヲ具シ政  
府ニ其ノ旨ヲ申出ツベシ

第六條 政府ハ軍需金融機關ニ對シ  
擔當事業者ニ對スル資金ノ融通ニ  
付テ其ノ限度ヲ指定スルコトヲ得  
前項ノ指定ヲ受ケタル軍需金融機  
關ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク  
テ外擔當事業者ニ對シ其ノ指定ヲ  
受ケタル限度ヲ超エテ資金ノ融通  
ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 軍需金融機關ハ其ノ職員ノ  
中ヨリ各擔當事業者ニ付軍需金融  
擔當者ヲ選任スベシ

軍需金融擔當者ハ常時當該軍需金  
融機關ト擔當事業者トノ間ノ連絡  
ニ當リ當該事業者ノ事業ノ適當ナ  
ル遂行ニ必要ナル資金ノ調達ニ支  
障ナカラシムルト共ニ其ノ資金ノ  
効率ノ使用ノ促進ニ努ムベシ

第八條 軍需金融機關ノ職員ニシテ  
事業者ニ對スル資金ノ融通ニ關ス  
ル事務ニ從事スルモノハ之ヲ法令  
ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第九條 軍需金融機關ハ擔當事業者  
ヨリ委託ヲ受ケタルトキハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ當該事業者ノ爲賣  
代金、前受金、前渡金其ノ他之  
ニ準ズベキモノノ受拂ニ關スル事  
務ヲ取扱フベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ事  
業者ニ對シ前項ノ事務ヲ其ノ資金  
ノ融通ヲ受ケベキ軍需金融機關ニ  
委託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 政府ハ必要アリト認ムルト  
キハ軍需金融機關ニ對シ擔當事  
業者ニ對スル資金ノ融通、事業者  
ヨリノ預金、貯金若ハ金銭信託ノ  
受入又ハ前條第一項ノ事務ニ付利  
率、期限、手数料其ノ他ノ條件ニ關  
シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ハ必要アリト認ムル  
トキハ軍需金融機關ニ對シ營業所  
ノ設置若ハ廢止、定款ノ變更其ノ  
他必要ナル事項ヲ命ジ又ハ政府ノ  
指定スル營業所ニ於ケル業務ノ執  
行ヲ制限スルコトヲ得

第十二條 政府ハ必要アリト認ムル  
トキハ軍需金融機關ニ對シ勅令ノ  
定ムル所ニ依リ擔當事業者ニ對ス  
ル資金ノ融通ニ因リ收入ノ一部ヲ  
積立ツベキコトヲ命ズルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前  
項ノ積立金ノ運用又ハ使用ニ關シ  
必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

軍需金融機關ハ勅令ヲ以テ定ムル  
目的ノ爲政府ノ許可ヲ受ケタル場  
合ヲ除クテ外第一項ノ積立金ヲ使  
用スルコトヲ得ズ但シ前項ノ命令  
アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ大東亞戰爭終了後則チ法律  
ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ積立金  
ノ一部ヲ政府ノ納付スベキコトヲ  
命ズルコトヲ得

第十三條 政府ハ必要アリト認ムル  
トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ金融

機關ニ對シ事業者ヨリノ預金、貯  
金又ハ金銭信託ノ受入ヲ制限又ハ  
禁止スルコトヲ得

第十四條 政府ハ必要アリト認ムル  
トキハ金融機關ニ對シ軍需金融機  
關ノ業務ヲ協力セシムル爲必要ナ  
ル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 軍需金融機關ニ對シ擔當  
事業者ガ設定スル工場財團其ノ他  
ノ財團ノ抵當權ニ付財團目錄ヲ調  
整スル場合ニ於テハ其ノ財團ヲ組  
成スベキ機械、器具、電柱、電線其  
ノ他ノ物件ハ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ之ヲ一括シテ表示スルヲ以テ足  
ル

第十六條 勅令ヲ以テ定ムル金融機  
關ガ其ノ營業ノ全部若ハ一部ノ讓  
渡又ハ勅令ヲ以テ定ムル他ノ金融  
機關ノ營業ノ全部若ハ一部ノ讓受  
ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議  
ノ日ヨリ二週間内ニ決議ノ要旨及  
營業ノ讓渡又ハ讓受ニ異議アル債  
權者ハ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベ  
ベキ旨ヲ公告スルコトヲ得但シ預  
金者其ノ他勅令ヲ以テ定ムル債權  
者以外ノ知レタル債權者ニハ各別  
ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ  
債權者ガ第一項ノ期間内ニ異議ヲ  
述ベザリシトキハ營業ノ讓渡ハハ  
讓受ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者ガ第一項ノ期間内ニ異議ヲ  
述ベタルトキハ營業ノ讓渡又ハ讓  
受ヲ爲サントスル同項ノ金融機關  
ハ讓渡ヲ爲シ若ハ相當ノ担保ヲ供  
シ又ハ債權者ニ讓渡ヲ受ケシムル  
コトヲ目的トシテ信託業務ヲ營ム

銀行若ハ信託會社ニ相當ノ財産ヲ  
信託スルコトヲ要ス

第一項ノ公告アリタルトキハ營業  
ノ讓渡ヲ爲シタル金融機關ノ預金  
者及同項ノ勅令ヲ以テ定ムル債權  
者ニ對シ民法第四百六十七條ノ規  
定ニ依リ確定日附アル證書ヲ以テ  
スル通知アリタルモノト看做ス此  
ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日附ヲ  
以テ確定日附トス

第十七條 勅令ヲ以テ定ムル金融機  
關ハ預金契約其ノ他ノ多數人ヲ相  
手方トスル定型契約ニ付約款ノ  
變更ヲ爲サントスルトキハ政府ノ  
認可ヲ受ケ當該變更ニ異議アル相  
手方ハ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベ  
ベキ旨ヲ公告スルコトヲ得但シ其ノ  
期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

相手方ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述  
ベザリシトキハ契約ノ變更ヲ承認  
シタルモノト看做ス

第十八條 勅令ヲ以テ定ムル金融機  
關ハ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ  
社債其ノ他ノ債券ノ償還ニ付利息  
ノ定ムル所ニ依リ而シテ拘ラズ  
抽籤ノ方法ニ依リラザルコトヲ得  
前項ノ規定ハ勅令ヲ以テ定ムル金  
融機關ガ擔保附社債信託法第二十  
三條又ハ第二十八條(第三十條第  
一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)  
ノ規定ニ依リ社債ノ償還ヲ爲ス權  
限ヲ有スル場合ニ於ケル社債ノ償  
還ニ之ヲ準用ス

第十九條 勅令ヲ以テ定ムル金融機  
關ノ株主總會ノ招集及決議ニ關シ  
テハ他ノ法律ノ規定ニ拘ラズ勅令  
ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スベシトヲ得

第二十條 勅令ヲ以テ定ムル金融機  
關ニ關シ必要アルトキハ營業ノ制  
限、取締等ニ關スル法令ノ規定ニ  
付勅令ヲ以テ其ノ適用ヲ排除シ又

ハ特例ヲ設ケルコトヲ得  
第二十一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ資金ノ調達方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第二十二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本銀行、軍需金融機關又ハ金融統制團體ニ依リ團體ノ職員ヲシテ臨時資金調整法、軍需會社法其ノ他ノ法律ニ依リ資金又ハ經理ニ關スル検査ニ關スル事務ニ從事セシムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ同項ノ検査ニ關スル職務ニ係ル罰則ノ適用ニ付テハ同項ノ職員ハ之ヲ同項ノ事務ニ從事スル官吏ト看做ス  
第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第二條第一項ノ規定ニ依リ軍需金融機關ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 政府ハ本法又ハ本法ニ基キテ爲ス命令若ハ處分ノ效果ノ確保上支障アリト認ムルトキハ金融機關ノ取締役、監査役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコトヲ得  
附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
貯蓄銀行法中左ノ通改正ス  
第十五條 削除

臨時資金調整法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和二十年一月三十日  
衆議院議長 岡田 忠彥  
貴族院議長 公爵德川 閑胤殿  
臨時資金調整法中改正法律案  
臨時資金調整法中左ノ通改正ス  
第六條第一項中「五十億圓」ヲ「百億

圓」ニ改ム  
第七條ノ三 日本勸業銀行法第三十條ノ四但書ノ規定ハ之ヲ適用セズ  
第十條ノ五第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
第一項ニ規定スル債券ガ社債ナル場合ニ於テハ商法第三百六條第二項ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得  
第十條ノ六中「前條第一項ニ規定スル證券」ノ下ニ「並ニ第十條ノ十二第一項ニ規定スル證券」ヲ加フ  
第十條ノ十二 政府ハ資金ノ吸收ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル法人ヲシテ賣得金ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ購買者ニ當籤金ヲ交付スルコトヲ得ル證券ヲ發賣セシムルコトヲ得  
前項ニ規定スル證券ヲ發賣スル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ賣得金ヨリ前項ノ當籤金及命令ノ定ムル經費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スベシ  
第一項ニ規定スル證券ヲ發賣スル法人ガ法人稅法、營業稅法及臨時利得稅法ニ依リ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヲ課セラルベキモノナルトキハ法人稅法ニ依リ所得、營業稅法ニ依リ純益及臨時利得稅法ニ依リ利益ノ計算ニ付テハ第一項ノ賣得金ハ當該法人ノ總額金ヨリ、第一項ノ當籤金並ニ前項ノ經費及納付金ハ當該法人ノ總損金ヨリ之ヲ控除ス  
第一項ノ當籤金ノ債權ハ一年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス  
政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ニ規定

スル證券ニ關シ之ヲ發賣スル法人ヨリ報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得  
第一項ニ規定スル證券ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲メ資金吸收特別方策委員會ヲ置ク  
資金吸收特別方策委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十條ノ十三 國民貯蓄増強策ノ圓滑ナル運営ヲ圖ル爲メ都道府縣及市町村ニ國民貯蓄運籌委員會ヲ置クコトヲ得  
國民貯蓄運籌委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十四條ノ五中「及第十條ノ五第一項ニ規定スル證券」ニ「及第十條ノ五第一項ニ規定スル證券及第十條ノ十二第一項ニ規定スル證券」ニ改ム  
第十四條ノ六 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券轉讓稅ヲ課セズ  
一 第十條ノ三ノ規定ニ基キ貯蓄ニ關シ國債證券其ノ他ノ有價證券ノ移轉アリタルトキ  
二 第十條ノ五第一項、第十條ノ七、第十四條第二項又ハ第十四條ノ三第二項ノ割増金ノ支拂ニ關シ國債證券其ノ他ノ有價證券ノ移轉アリタルトキ  
三 第十條ノ十二第一項ノ當籤金ノ支拂ニ關シ國債證券其ノ他ノ有價證券ノ移轉アリタルトキ  
第十八條第五號及第十八條ノ二中「第十六條ノ上ニ」第十條ノ十二第五項又ハ」ヲ加フ  
附則  
本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰時金融庫法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和二十年一月三十日  
衆議院議長 岡田 忠彥  
貴族院議長 公爵德川 閑胤殿  
戰時金融庫法中改正法律案  
臨時金融庫法中左ノ通改正ス  
第二十條中「十倍」ヲ「三十倍」ニ改ム  
附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
生命保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和二十年一月三十日  
衆議院議長 岡田 忠彥  
貴族院議長 公爵德川 閑胤殿  
生命保險中央會法案  
生命保險中央會法  
第一章 總則  
第一條 生命保險中央會ハ生命保險制度ノ適切ナル運営ニ資スルコトヲ目的トス  
生命保險中央會ハ法人トス  
第二條 生命保險中央會ハ主たる事務所ヲ東京都ニ置ク  
生命保險中央會ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得  
第三條 生命保險中央會ハ保險會社其ノ他主務大臣ノ指定スル者ヲシテ業務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得  
第四條 生命保險中央會ノ基金ハ千五百萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス  
第五條 政府ハ千四百五十萬圓ヲ生命保險中央會ニ出資スベシ

項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣ノヲ定ム  
第六條 生命保險中央會ハ出資ニ對シ基金證券ヲ發行ス  
基金證券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第七條 出資者ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得  
第八條 生命保險中央會ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ  
一 名稱  
二 目的  
三 事務所ノ所在地  
四 基金及資產ニ關スル事項  
五 役員ニ關スル事項  
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項  
七 經理ニ關スル事項  
八 公告ノ方法  
定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
第九條 生命保險中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スベシ  
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
第十條 生命保險中央會ニハ營業稅ヲ課セズ  
生命保險中央會ハ其ノ行フ信託業務ニ付テハ租稅ニ關スル法令ノ適用ニ關シ之ヲ信託會社ト看做ス  
第十一條 生命保險中央會ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
第十二條 生命保險中央會ニ非ザル者ハ生命保險中央會又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ  
第十三條 民法第四十四條、第五十

戰時金融庫法中改正法律案  
臨時金融庫法中左ノ通改正ス  
第二十條中「十倍」ヲ「三十倍」ニ改ム  
附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
生命保險中央會法案  
生命保險中央會法  
第一章 總則  
第一條 生命保險中央會ハ生命保險制度ノ適切ナル運営ニ資スルコトヲ目的トス  
生命保險中央會ハ法人トス  
第二條 生命保險中央會ハ主たる事務所ヲ東京都ニ置ク  
生命保險中央會ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得  
第三條 生命保險中央會ハ保險會社其ノ他主務大臣ノ指定スル者ヲシテ業務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得  
第四條 生命保險中央會ノ基金ハ千五百萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス  
第五條 政府ハ千四百五十萬圓ヲ生命保險中央會ニ出資スベシ



條 第五十四條及第五十七條並ニ  
非訟事件手續法第三十五條第一項  
ノ規定ハ生命保險中央會ニ之ヲ準  
用ス

第二章 役員

第十四條 生命保險中央會ニ役員ト  
シテ理事長副理事長各一人、理事  
三人以上、監事二人以上及評議員  
若干人ヲ置ク

第十五條 理事長ハ生命保險中央會  
ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ前條ノ定ムル所ニ依リ  
生命保險中央會ヲ代表シ理事長ヲ  
輔佐シテ生命保險中央會ノ業務ヲ  
掌理シ理事長事故アルトキハ其ノ  
職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ  
其ノ職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ生命  
保險中央會ヲ代表シ理事長及副理  
事長ヲ輔佐シテ生命保險中央會ノ  
業務ヲ掌理シ理事長及副理事長共  
ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理  
シ理事長及副理事長共ニ缺員ノト  
キハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ生命保險中央會ノ業務ヲ監  
査ス

評議員ハ生命保險中央會ノ業務ニ  
關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問  
ニ應ジ又ハ理事長ニ對シ意見ヲ述  
ブルコトヲ得

理事長ハ主務大臣ノ定ムル事項ニ  
付テハ評議員ニ諮問スベシ

務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又  
ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
ル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十八條

理事長、副理事長及理事  
ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ  
但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルト  
キハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 業務

第十九條 生命保險中央會ハ左ノ業  
務ヲ行フ

一 生命保險ニ於ケル戰爭危險  
(戰爭其ノ他ノ變亂ニ因ル死亡ヲ  
謂フ以下同ジ)ノ再保險ノ引受  
二 戰爭死亡傷害保險法ニ依ル保  
險ノ引受

三 標準下體生命保險ノ引受及  
第一號ニ掲グルモノヲ除クノ外  
標準下體生命保險ノ再保險ノ引  
受

四 第一號及前號ニ掲グルモノヲ  
除クノ外生命保險ノ再保險ニ關  
スル取引

五 前各號ノ業務ニ附帶スル業務  
前項第一號ノ再保險ノ引受ヲ爲ス  
金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 主務大臣ハ生命保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ生命保險中央會ニ對シ必  
要ナル業務ノ施行ヲ命ズルコトヲ  
得

第二十四條

生命保險中央會ハ生命  
保險會社ノ業務及財産ノ管理ヲ爲  
シ又ハ生命保險會社ヨリ保險契約  
ノ移轉ヲ受クルコトヲ得

業務及財産ノ管理並ニ保險契約ノ  
移轉ニ關スル保險業法ノ規定ハ其  
ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

生命保險中央會ガ保險業法第五條  
第一項但書ノ規定ニ依リ信託業務  
ヲ營ム生命保險會社ヨリ保險契約  
全部ノ移轉ヲ受ケタルトキハ生命  
保險中央會ハ當該生命保險會社ノ  
信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス

信託業法第十六條第二項ノ規定ハ  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 主務大臣ハ生命保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ生命保險會社ニ對シ生命保  
險中央會ノ業務ノ一部ヲ取扱ハシメ  
其ノ他生命保險中央會ノ業務ニ協  
力セシムル爲必要ナル命令ヲ爲ス  
コトヲ得

第二十六條 保險會社ハ生命保險契  
約ニ別段ノ定アルトキト雖モ命令  
ヲ以テ定ムル金額ニ付テハ戰爭危  
險ニ因ル保險金ノ支拂ノ責ヲ免ル  
ルコトヲ得

大臣ノ定ムル所ニ依リ戰爭危險ノ  
保險ニ關スル業務ニ基ク收支ト其  
ノ他ノ收支トヲ區分經理スベシ

第二十九條

生命保險中央會ハ主務  
大臣ノ定ムル所ニ依リ設立ノ時及  
毎事業年度ノ初ニ於テ財産目録、  
貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ

主務大臣ノ承認ヲ受クベシ

第三十條 生命保險中央會戰爭危險  
ノ保險ニ關スル業務以外ノ業務ニ  
因リテ得タル剩餘金ノ處分ヲ爲サ  
ントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ  
受クベシ

第三十一條 生命保險中央會ハ主務  
大臣ノ定ムル所ニ依リ戰爭危險ノ  
保險ニ關スル業務以外ノ業務ニ因  
リテ得タル剩餘金中ヨリ準備金ノ  
積立ヲ爲スベシ

第三十二條 生命保險中央會ハ每事  
業年度ニ於テ配當シ得ベキ剩餘  
金額ガ政府以外ノ投資者ノ拂込出  
資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ  
超過セザルトキハ政府ノ出資ニ對  
シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セ  
ズ

生命保險中央會ハ每事業年度ニ於  
ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ拂込  
出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合  
ニ達セザル場合ニ於テ政府以外ノ  
投資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百  
分ノ五ノ割合ヲ超過スルトキハ其  
ノ超過金額ヲ政府ニ配當スベシ

第三十三條 生命保險中央會ハ戰爭  
危險ノ保險ニ關スル業務ニ因リテ  
得タル剩餘金ヲ特別ノ準備金トシ  
テ積立ツベシ

第三十七條

法人稅法ニ依ル所得及  
臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ  
付テハ第三十四條ノ補償金ハ總益

前項ノ規定ニ依ル補償金ノ償還ニ  
充ツルモノ仍第一項ノ準備金ニ剩餘  
アルトキハ之ヲ第一項ノ準備金ニ  
規定ニ依リ生命保險中央會ノ再  
保險ニ付シタル保險會社ニ對シ主  
務大臣ノ認可ヲ受ケタル方法ニ依  
リ返戻スベシ

第三十四條 政府ハ生命保險中央會  
ニ對シ戰爭危險ノ保險ニ關スル業  
務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償ス  
政府ハ生命保險中央會ニ對シ第二  
十三條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ施  
行ヲ命ズル業務ニ因リテ受ケタ  
ル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコ  
トヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スベキ  
補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ  
經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於  
テ之ヲ爲スベシ

第一項及第二項ノ損失ヲ決定スル  
基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル  
事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 前條第一項及第二項ノ  
損失及其ノ額ハ生命保險審查會之  
ヲ決定ス

金ヨリ、同條ノ損失ハ總損金ヨリ之ヲ控除ス

第五章 監督

第三十八條 生命保險中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第三十九條 生命保險中央會借入金ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十條 主務大臣ハ生命保險中央會ノ目的達成上必要アリト認ムルトキハ定款變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第四十一條 生命保險中央會ハ業務開始ノ際保險約款、業務ノ方法、保險料及責任準備金ノ算出方法並ニ財産利用ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ保險契約者、被保險者又ハ保險金ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スル爲テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ變更認可ノ際現ニ存スル保險契約ニ付テモ亦將來ニ向ツテ其ノ變更ノ效力ノ及ブモノト爲スコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ生命保險中央會ハ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スベシ

第四十二條 主務大臣ハ生命保險中央會ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、當該官吏ヲシテ検査ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 主務大臣ハ生命保險中央會監督官ヲ置キ生命保險中央會ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

生命保險中央會監督官ハ何時ニテモ生命保險中央會ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第五十二條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十三條 政府ハ設立委員ヲ命ジ生命保險中央會ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第五十四條 協榮生命再保險株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ商法第三百四十三條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ生命保險中央會ニ吸收セラルルコトヲ得

協榮生命再保險株式會社前項ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十五條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ協榮生命再保險株式會社ノ株式ニ對シ同株式四株ニ付全額拂込濟出資一口ノ割合ヲ以テ生命保險中央會ノ出資ヲ引當ツベシ

第五十六條 設立委員ハ前條第二項ノ引當ヲ終リタルトキハ主務大臣ニ對シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ヲ拂込テ政府ニ稟請スベシ

第五十七條 前條第二項ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ生命保險中央會理事長ニ引渡スベシ

前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタ

千圓以下ノ過料ニ處ス

第一 第二十四條第二項ニ於テ準用スル保險業法第九十四條ノ規定又ハ同條ニ基キ命令ニ違反シテ登記ヲ爲スコトヲ意リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

第二 第二十四條第二項ニ於テ準用スル保險業法第九十四條第一項、第九十八條、第一百零二條、第一百零八條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スコトヲ意リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三 本法(第二十四條第二項)ニ於テ準用スル保險業法第一百零一條第四項及第二百二十三條ノ規定ヲ含ムニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

第四 第二十四條第二項ニ於テ準用スル保險業法第一百零二條ノ規定ニ違反シテ保險契約移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ

第五 第二十四條第二項ニ於テ準用スル保險業法第一百零三條又ハ第一百零五條ノ規定ニ違反シテ保險契約、財産ノ處分又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第六 第二十六條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

前項第六號ノ罰則ハ保險會社ニ付業務及財産ノ管理ノ委託アリタル場合ニ於テ其ノ委託アリタル業務ニ付テハ管理ノ受託會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ、業務及財産ノ管理ノ命令アリタル場合ニ於テハ保險管理入(保險管理入會社)ナルトキハ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ之ヲ適用ス

第五十條 第十二條ノ規定ニ違反シ

テ生命保險中央會又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十三條 政府ハ設立委員ヲ命ジ生命保險中央會ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第五十四條 協榮生命再保險株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ商法第三百四十三條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ生命保險中央會ニ吸收セラルルコトヲ得

協榮生命再保險株式會社前項ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十五條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ協榮生命再保險株式會社ノ株式ニ對シ同株式四株ニ付全額拂込濟出資一口ノ割合ヲ以テ生命保險中央會ノ出資ヲ引當ツベシ

第五十六條 設立委員ハ前條第二項ノ引當ヲ終リタルトキハ主務大臣ニ對シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ヲ拂込テ政府ニ稟請スベシ

第五十七條 前條第二項ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ生命保險中央會理事長ニ引渡スベシ

前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタ

ルトキハ主たる事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ  
生命保險中央會ハ前項ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス  
第五十八條 生命保險中央會ノ成立ニ因リ協榮生命再保險株式會社ハ之ニ吸収セラレルモノトシ協榮生命再保險株式會社ノ權利義務ハ生命保險中央會ニ於テ之ヲ承繼ス  
生命保險中央會ガ前項ノ規定ニ依リ協榮生命再保險株式會社ノ權利義務ヲ承繼シタルニ因リ行フベキ業務中第十九條第一項ノ業務以外ノ業務ハ之ヲ第二十一條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル業務ト看做ス

第五十九條 協榮生命再保險株式會社ノ株式ヲ目的トスル質權其ノ他ノ權利ハ其ノ株式ニ對シ引當テラレタル出資ノ持分ノ上ニ存在ス  
第六十條 第五十八條第一項ノ規定ニ依リ協榮生命再保險株式會社ヨリ生命保險中央會ヘ有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ課セズ

第六十一條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外生命保險中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十二條 第五十四條第一項ノ決議ナキ場合又ハ其ノ決議ガ效力ヲ生ゼザル場合ニ於テハ生命保險中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 登錄稅法中左ノ通改正ス  
第十九條第七號中「戰時金融庫」ノ下ニ「生命保險中央會」ヲ、「戰時金融庫法」ノ下ニ「生命保險中央會法」ヲ加フ

第六十四條 印紙稅法中左ノ通改正ス  
第五條第六號ノ三ノ二ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
六ノ三ノ三 生命保險中央會ノ發スル基金證券

第六十五條 戰爭死亡傷害保險法中左ノ通改正ス  
第二條第一項中「政府ノ指定スル保險會社」及「當該保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改メ同條第二項ヲ削ル  
第三條第一項中「保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改ム  
第六條第一項中「保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改ム  
第六條第二項中「保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改ム  
第七條中「保險會社」及「當該保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改ム  
第八條中「營業稅法ニ依リ純益」ヲ削リ「保險會社」ヲ「生命保險中央會」ニ改ム  
第十條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要ナルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定メ爲スコトヲ得

第六十六條 保險業法中左ノ通改正ス  
第五條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ生命保險事業ヲ營ム會社ハ信託業法ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ支拂フ保險金ニ付信託ノ引受ヲ爲ス業務ヲ營ムコトヲ得  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ業務ノ種類及方法ヲ記

載シタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス  
第五條ノ二 信託業法第九條及第十條ノ規定ハ保險會社ガ前條第一項但書ノ規定ニ依リ信託業務ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス  
第五條ノ三 信託業務ヲ營ム保險會社ハ其ノ信託業務ニ付テハ租稅ニ關スル法令ノ適用ニ關シ之ヲ信託會社ト看做ス  
第十條第一項中「第一條第二項」ノ下ニ「又ハ第五條第二項」ヲ加フ  
第十八條ノ二 信託業務ヲ營ム保險會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項ノ規定ニ依リテ爲スベキ催告ハ金錢信託ノ受益者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ  
第七十三條第一項中「商法第五十六條第三項」ノ上ニ「第十八條ノ二」ヲ加フ  
第一百二十二條ノ左ノ一項ヲ加フ  
保險契約ヲ移轉セントスル會社ガ信託業務ヲ營ムモノトナルトキハ第一項ノ公告ニハ受益者ニシテ異議アラバ第二項ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第六百三十一條ノ二 信託業務ヲ營ム保險會社ガ保險契約全部ノ移轉又ハ合併ヲ爲シタルトキハ保險契約ノ移轉ヲ受ケタル保險會社又ハ合併後存續シ若ハ合併ニ因リテ設立シタル保險會社ハ保險契約ノ移轉又ハ合併ニ因リテ消滅シタル保險會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承認ス  
信託業法第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百二十二條第六號中「第一條第二項」ノ下ニ「又ハ第五條第二項」ヲ加フ  
第五百二十二條ノ二 信託業務ヲ營ム保險會社ノ役員又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ千圓以下ノ過料ニ處ス  
一 第五條ノ二ニ於テ準用スル信託業法第九條ノ規定又ハ同條ニ基キ命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ  
二 第五條ノ二ニ於テ準用スル信託業法第十條ノ規定ニ違反シテ信託財產ヲ固有財產ト爲シタルトキ  
三 信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スベキ信託財產ノ管理ヲ爲サザルトキ  
四 信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サズ又ハ財產目錄ヲ作成セザルトキ  
五 正當ノ事由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ拒ミ又ハ說明ヲ爲サザルトキ  
第六十七條 國民貯蓄組合法中左ノ通改正ス  
第二條第一項第三號中「信託業務ヲ營ム銀行」ノ下ニ「生命保險中央會若ハ保險會社」ヲ加フ  
第六十八條 第六十五條ノ規定施行前成立シタル戰爭死亡傷害保險法ニ依リ保險契約及同條ノ規定施行前爲シタル行爲ノ處罰ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和二十年一月三十日  
衆議院議長 岡田 忠彥  
貴族院議長 公爵德川閑廂殿

第一章 總則  
第一條 損害保險中央會ハ損害保險制度ノ適切ナル運営ニ資スルコトヲ目的トス  
第二條 損害保險中央會ハ主たる事務所ヲ東京都ニ置ク  
第三條 損害保險中央會ハ損害保險會社其ノ他主務大臣ノ指定スル者ヲシテ業務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得  
第四條 損害保險中央會ノ基金ハ五千萬圓トス  
第五條 政府ハ五千萬圓ヲ損害保險中央會ニ出資スベシ  
前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣ノ定メ

第六條 損害保險中央會ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ  
一 名稱  
二 事務所ノ所在地  
三 基金及資產ニ關スル事項  
四 役員ニ關スル事項  
五 業務及其ノ執行ニ關スル事項  
六 經理ニ關スル事項  
七 公告ノ方法  
八 定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六十七條 國民貯蓄組合法中左ノ通改正ス  
第二條第一項第三號中「信託業務ヲ營ム銀行」ノ下ニ「生命保險中央會若ハ保險會社」ヲ加フ  
第六十八條 第六十五條ノ規定施行前成立シタル戰爭死亡傷害保險法ニ依リ保險契約及同條ノ規定施行前爲シタル行爲ノ處罰ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

損害保險中央會法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

第七條 損害保險中央會ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ登記ヲ爲スベシ  
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項  
ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第  
三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 損害保險中央會ニハ所得

税、法人税及營業稅ヲ課セズ  
都道府縣、市町村其ノ他ノ準準  
ベキモノハ損害保險中央會ノ事業  
ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ  
得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ內務大  
臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場  
合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 損害保險中央會ニ付解散ヲ

必要トスル事由發生シタル場合ニ  
於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律  
ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 損害保險中央會ニ非ザル者

ハ損害保險中央會又ハ之ニ類似ス  
ル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ  
第十一條 民法第四十四條、第五十  
條、第五十四條及第五十七條並ニ  
非訟事件手續法第三十五條第一項  
ノ規定ハ損害保險中央會ニ之ヲ準  
用ス

第二章 職員

第十二條 損害保險中央會ニ役員ト

シテ理事長副理事長各一人、理事  
三人以上、監事二人以上及評議員  
若干人ヲ置ク  
第十三條 理事長ハ損害保險中央會  
ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ  
損害保險中央會ヲ代表シ理事長ヲ  
輔佐シテ損害保險中央會ノ業務ヲ  
掌理シ理事事故アルトキハ其ノ  
職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ  
其ノ職務ヲ行フ

第十四條 損害保險中央會ノ業務ヲ監

査ス  
評議員ハ損害保險中央會ノ業務ニ  
關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問  
ニ應ジ又ハ理事長ニ對シ意見ヲ述  
ブルコトヲ得  
理事長ハ主務大臣ノ定ムル事項ニ  
付テハ評議員ニ諮問スベシ  
第十五條 理事長、監事及評議員ハ  
主務大臣ノ命ニ  
副理事長及理事ハ理事長ノ推薦シ  
タル者ノ中ヨリ主務大臣ノ命ニ  
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ  
三年、監事及評議員ノ任期ハ二年  
トス

第十六條 理事長、副理事長及理事

ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事  
務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又  
ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
ル代理人ヲ選任スルコトヲ得  
第十七條 理事長、副理事長及理事  
ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ  
但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルト  
キハ此ノ限ニ在ラズ  
第十八條 損害保險中央會ノ職員ハ  
之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職  
員ト看做ス  
第十九條 損害保險中央會ノ職員ハ  
第三條又ハ第二十三條ノ場合ニ於  
テ當該業務ニ從事スル者（其ノ者  
ガ法人ナルトキハ當該業務ニ從事  
スル職員）ニ付亦前項ニ同ジ

第三章 業務

第二十條 損害保險中央會ハ主務大

臣ノ認可ヲ受ケテ外國保險會社ニ對  
シ出資ヲ爲シ又ハ外國保險會社ト  
損害保險ノ再保險ニ關スル取引ヲ  
爲スコトヲ得  
第二十一條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ損害保險中央會ニ對シ必  
要ナル業務ノ施行ヲ命ズルコトヲ  
得  
第二十二條 損害保險中央會ハ損害  
保險會社ノ業務及財産ノ管理ヲ爲  
シ又ハ損害保險會社ヨリ保險契約  
ヲ移轉シ受ケルコトヲ得  
業務及財産ノ管理並ニ保險契約ノ  
移轉ニ關スル保險業法ノ規定ハ其  
ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第二十三條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ損害保險會社ニ對シ損害

テ之ニ準ジテ取扱ハルル事故ノミ  
ヲ保險事故トスル海上保險ヲ謂フ  
本法ニ於テ地震保險トハ戰時特殊  
損害保險法ニ依リ地震保險ヲ謂フ  
本法ニ於テ普通保險トハ前二項ニ規  
定スルモノ以外ノ損害保險ヲ謂フ

第十九條 損害保險中央會ハ左

業務ヲ行フ  
一 普通保險ノ再保險ニ關スル取  
引  
二 戰爭保險及地震保險ノ再保險  
ノ引受  
三 損害保險ノ引受  
四 前各號ノ業務ニ附帶スル業務  
前項第一號ノ業務ノ範圍ハ命令ヲ  
以テ之ヲ定ム

第二十條 損害保險中央會ハ主務大

臣ノ認可ヲ受ケテ外國保險會社ニ對  
シ出資ヲ爲シ又ハ外國保險會社ト  
損害保險ノ再保險ニ關スル取引ヲ  
爲スコトヲ得  
第二十一條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ損害保險中央會ニ對シ必  
要ナル業務ノ施行ヲ命ズルコトヲ  
得  
第二十二條 損害保險中央會ハ損害  
保險會社ノ業務及財産ノ管理ヲ爲  
シ又ハ損害保險會社ヨリ保險契約  
ヲ移轉シ受ケルコトヲ得  
業務及財産ノ管理並ニ保險契約ノ  
移轉ニ關スル保險業法ノ規定ハ其  
ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第二十三條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ損害保險會社ニ對シ損害

第二十四條 保險會社ニ付戰爭保險

關係又ハ地震保險關係成立シタル  
トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ  
因リテ當該保險會社ト損害保險中  
央會トノ間ニ當該戰爭保險又ハ地  
震保險ニ付再保險關係成立スルモ  
ノトス保險會社戰時特殊損害保險  
法第五條ニ規定スル損害保險契約  
ヲ爲シタル場合ニ於テ同條ニ規定  
スル損害ヲ填補スベキ保險會社ノ  
責任ニ付亦同ジ  
木船保險組合ニ付木船保險法ニ依  
ル保險關係成立シタルトキハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リテ木船  
保險組合ト損害保險中央會トノ間  
ニ當該保險ニ付再保險關係成立ス  
ルモノトス  
第二十五條 主務大臣必要アリト認  
ムルトキハ保險會社ニ對シ其ノ引  
受ケタル普通保險ヲ損害保險中央  
會ノ再保險ニ付スベキコトヲ命ズ  
ルコトヲ得  
第二十六條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ損害保險中央會ニ於テ再  
保險ヲ爲ス保險ニ付保險會社ニ對  
シ保險料其ノ他保險契約ニ關シ必  
要ナル命令ヲ爲シ又ハ保險ノ引受  
ヲ命ズルコトヲ得  
第四章 經理  
第二十七條 損害保險中央會ノ事業  
年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス  
第二十八條 損害保險中央會ハ主務  
大臣ノ定ムル所ニ依リ設立ノ時及  
毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、  
貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ  
主務大臣ノ承認ヲ受クベシ  
第二十九條 損害保險中央會剩餘ヲ

得タルトキハ其ノ剩餘金ヲ政府ニ

納付スベシ  
政府ハ損害保險中央會ニ對シ其ノ業  
務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償ス  
前二項ノ剩餘及損失ヲ決定スル基  
準其ノ他剩餘金納付及損失補償ニ  
關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之  
ヲ定ム  
第三十條 前條ノ剩餘及損失並ニ其  
ノ額ハ損害保險審查會之ヲ決定ス  
損害保險審查會ノ組織及權限ハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十一條 損害保險中央會ハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ再保險ニ依リ收  
入金額ヨリ再保險ニ依リ支出金額  
ヲ控除シタル剩餘ノ一部ヲ保險會  
社又ハ木船保險組合ニ交付スルコ  
トヲ得  
第五章 監督  
第三十二條 損害保險中央會ハ主務  
大臣ノ命ニ監督ス  
第三十三條 損害保險中央會借入金  
ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ  
認可ヲ受クベシ  
第三十四條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ノ目的達成上必要アリト認ム  
ルトキハ定款ノ變更其ノ他必要ナ  
ル事項ヲ命ズルコトヲ得  
第三十五條 損害保險中央會ハ業務  
開始ノ際保險約款、業務ノ方法及  
財產利用ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ  
認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントス  
ルトキ亦同ジ  
損害保險中央會ハ其ノ業務ニ屬ス  
ル保險ノ保險條件ノ中命令ヲ以テ  
定ムルモノニ付テハ主務大臣ノ認  
可ヲ受クベシ之ヲ變更セントス  
ルトキ亦同ジ  
第三十六條 主務大臣ハ損害保險中  
央會ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關  
シ報告ヲ爲サシメ、當該官吏ヲ

テ検査ヲ爲サシメノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 主務大臣ハ損害保險中央會ニ於テ再保險ヲ爲ス保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ保險會社又ハ船舶保險組合ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

主務大臣ハ損害保險中央會ニ於テ再保險ヲ爲ス保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ當該保險ノ目的ノ所在ノ場所、保險會社ノ營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ當該物件又ハ業務ノ狀況若ハ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十八條 主務大臣ハ損害保險中央會監督官ヲ置キ損害保險中央會ノ業務ヲ監視セシム

第三十九條 損害保險中央會監督官ハ何時ニテモ損害保險中央會ニ命ジ業務及財務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

損害保險中央會監督官ハ何時ニテモ損害保險中央會ニ命ジ業務及財務ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

損害保險中央會監督官ハ損害保險中央會ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第四十條 損害保險中央會ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シタルトキ又ハ損害保險中央會ノ目的達成上特ニ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

戰爭保險又ハ地震保險ニ關スル業務上ノ秘密ニシテ職務上知得タルモノヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ損害保險中央會ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法(第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法ノ規定ヲ除ク)ニ基キ主務大臣ノ認可ヲ受ケザル場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ行ヒタルトキ

三 主務大臣ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

四 第三十九條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ損害保險中央會監督官ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ怠リ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ損害保險中央會ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

會社ノ取締役、監査役、清算人若ハ此等ニ准ズル者又ハ支配人ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法第九十四條ノ規定又ハ同條ニ基キテ命令ニ違反シテ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法第九十四條第一項、第九十八條、第四百四條第三項、第四百六條第一項又ハ第四百六條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

三 第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

四 前號ノ場合ヲ除クノ外本法(第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法第九十四條及第四百二十三條ノ規定ヲ含ム)ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

五 第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法第九十四條ノ規定ニ違反シテ保險契約ヲ移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ

六 第二十二條第二項ニ於テ准用スル保險業法第九十四條又ハ第四百十五條ノ規定ニ違反シテ保險契約、財産ノ處分又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第七 第三十七條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

役員又ハ支配人ニ、業務及財産ノ管理ノ命令アリタル場合ニ於テハ保險管理人(保險管理人會社ナルトキハ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人)ニ之ヲ適用ス

第四十五條 船舶保險組合第二十七條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ其ノ理事長其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十六條 第三十七條第二項ノ規定ニ依リ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十條ノ規定ニ違反シテ損害保險中央會又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第七章 雜則

第四十八條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

第四十九條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第五十八條乃至第六十一條ノ規定ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理事長前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ事務ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

損害保險中央會前項ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十三條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外損害保險中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 登録稅法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「帝都高速度交通營團」ノ上ニ「損害保險中央會」ヲ、「帝都高速度交通營團法」ノ上ニ「損害保險中央會法」ヲ加フ

第五十五條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第五號ノ四ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ五 損害保險中央會ノ業務ニ關スル證書帳簿

務所、ヲ加フ

第十六條及第十七條 削除

第十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ付テハ保險會社ノ戰爭保險又ハ地震保險ニ關スル業務ニ基キ收入シタル金額ノ全部及第五條ノ損害保險ニ關スル業務ニ基キ收入シタル金額中命令ヲ以テ定ムル額ハ其ノ總益金ヨリ、保險會社ノ戰爭保險又ハ地震保險ニ關スル業務ニ基キ支出シタル金額ノ全部及同條ノ損害保險ニ關スル業務ニ基キ同條ノ規定スル事故ニ因リテ生ジタル損害ニ關シテ支出シタル金額ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ其ノ總損金ヨリ之ヲ控除ス

第十九條中「必要アリト認ムルトキハ」ノ下ニ「損害保險中央會、」ヲ加フ

第二十三條中「戰時損害保險審查會」ヲ「損害保險審查會」ニ改ム

第五十七條 前條ノ規定施行前成立シタル戰時特殊損害保險法ニ依ル戰爭保險契約及地震保險契約ニ基ク保險會社ノ收支並ニ同法第五條ノ損害保險契約ニ基ク保險會社ノ收支ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十八條 損害保險國營再保險法ハ之ヲ廢止ス

損害保險國營再保險特別會計法ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第五十九條 前條ノ規定施行前成立

シタル損害保險國營再保險法ニ依ル再保險關係ニ基キ損害保險國營再保險特別會計廢止ノ際政府ガ保險會社又ハ木船保險組合ニ對シテ有スル權利義務、損害保險中央會ニ於テ之ヲ承繼ス

前項ノ規定スルモノヲ除クノ外損害保險國營再保險特別會計廢止ノ際之ニ屬スル權利義務ハ之ヲ一般會計ニ歸屬セシム

第六十條 第五十八條第一項ノ規定施行前損害保險國營再保險法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍同法ニ依ル

第六十一條 前二條ノ規定スルモノヲ除クノ外第五十八條第一項ノ規定施行ノ際必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

臺灣銀行法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和二十年一月三十日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長 公爵德川 順顯

臺灣銀行法中改正法律案

臺灣銀行法中ノ通改正ス

第八條第一項中「券面金額一圓以上」ノ「」ヲ削リ同條第一項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

臺灣銀行券前項ノ銀行ノ種類及樣式ヲ定ムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣石渡莊太郎君登壇〕

○國務大臣(石渡莊太郎君) 先づ軍需金融等特別措置法案ニ付テ證明致シマ

ス、重大ナル戰局ニ對處シ、戰力増強ノ要請ニ應ジマサルガ爲ニハ、軍需會社等ニ對スル金融ノ圓滑適正化ヲ期シマ

ス、共ニ、資金ノ效率ノ使用ヲ促進スルコトノ必要ナルコト申ス迄モナイ所デアリマス、昨年軍需會社ノ指定ニ伴ヒ

創設セラレマシタ軍需融資指定ノ金融機關制度モ、之ヲ目的ト致シタモノデアリマシテ、本制度ハ爾來相當ノ效果

ヲ擧ゲテ參ツタノデアリマスガ、今般之ヲ法的ニ明確ナラシメ、且之ヲ強化

シ、軍需會社以外ノ者ニ對スル資金ノ融通ニ付テモ此ノ方式ヲ採用スル等、

金融ノ圓滑適正化ヲ圖ルト共ニ、一層資金使用ノ効率化ヲ促進スル等ノ爲、

本法案ヲ提出致シ次第デアリマス、本法案ノ内容ハ、先づ第一ハ、政府ノ

指定スル金融機關ハ軍需會社等ニ對シ資金ノ融通ヲ擔當スベキモノトシ、而

シテ其ノ融通ニ當リテハ、簡易迅速ニ且資金ノ使用ヲ效率ノナラシムル配意

ノ下ニ行フヲ要スルコトト致シタノデアリマス、尙政府ハ軍需金融機關ガ各

擔當事業者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲シ得ル限度ヲ指定スルコトト共ニ、

必要ニ應ジ擔當事業者ノ預金等ヲ、當該軍需金融機關ニ集中スル等ノ措置ヲ講ジ得ルコトト致シタノデアリマス、

部ヲ、一定ノ標準ニ依リ特別ニ積立シメ、本積立金ハ之ヲ一定ノ使途ニ充當

シタル後、一部ヲ大東亞戰爭終了後、法律ノ定ムル所ニ依ツテ政府ニ納付セ

シメ得ルコトト致シタノデアリマス、第三ハ、金融機關全部ノ協力一致ノ態

勢ヲ一層強化セシムル爲、政府ハ必要ニ應ジ一般金融機關ニ對シ軍需金融機

關ニ協力セシムル爲必要ナル命令ヲ爲シ得ルコトト致シタノデアリマス、第

四ハ、政府ハ必要アリト認メマシルトキハ、軍需金融機關等ノ職員ヲシテ、

臨時資金調整法等ニ依ル資金及經理ニ關スル檢查ニ關スル事務ニ從事セシム

ルコトト致シタノデアリマス、第五ハ、政府ハ本法ノ效果確保上支障アリト認

ムルトキハ、金融機關ノ役員ヲ辭任シ得ルコトト致シタノデアリマス、次ニ

臨時資金調整法中改正法律案ニ付說明致シマス、戰力ノ基礎タル國民經濟ノ

秩序ヲ維持スルガ爲ニハ、國民貯蓄ノ増強、浮動資金ノ吸收、緊要産業資金

ノ圓滑ナル供給等ニ關シ、各般ノ措置ヲ講ズルノ要ガアルノデアリマシテ、

此ノ趣旨ヲ以テマシテ、臨時資金調整法ヲ改正スルコトト致シタノデアリ

マス、改正ノ主ナル點ヲ申上ゲマシレバ、第一ハ、戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ、

デアリマス、第二ハ、國民貯蓄ノ増強

ニ支障ナカラシムル爲、日本勸業銀行ノ預カリ金ノ限度ニ關スル制限ヲ撤廢

スルコトヲ必要ト認メ、之ガ爲必要ナル規定ヲ設クルコトト致シタノデアリ

マス、第三ハ、福券等割増金附證券ノ記載事項ヲ簡略ナラシムル爲、必要ナル規定ヲ設クルコトト致シタノデアリ

マス、第四ハ、最近ニ於ケル金融及通貨等ノ情勢ニ鑑ミ、資金ノ吸收手段ト

シテハ、從來ノ方法ノミヲ以テシテハ遺憾ナ點モアリマスノデ、其ノ賣却總

代金ノ一部、約半額ヲ抽籤ニ依リ返還シ、元金ヲ返還シナイ、所謂富籤證券

ノ發賣ヲ實施スル必要ヲ認メ、之ニ必要ナル規定ヲ新タニ設クルコトト致シ

タノデアリマス、第五ハ、今後國民貯蓄ノ増強ヲ圖リマスル爲ニハ、貯蓄ノ

割當ニ付一層之ガ適正ヲ圖ルト共ニ、其ノ他ノ國民貯蓄増強策ニ付テモ、

其ノ運營ヲ努メテ圓滑ナラシムルコトガ益、緊要ト相成リマシタノデ、都府

縣及市町村ニ國民貯蓄運營委員會ヲ設ケ、政府ノ施策ニ協力致サシムルコト

トシ、之ニ必要ナル規定ヲ設クルコトト致シタノデアリマス、第六ハ、割増金附證券ノ割増金等ヲ、國債其ノ他ノ

有價證券ヲ以テ支拂フ場合ニ於キマシテハ、之ニ對シ有價證券移轉稅ヲ課セザルコトト致シタノデアリマス、次ニ

戰時金融庫法中改正法律案ニ付テ說明致シマスレバ、戰時金融庫ガ其ノ

任務タル緊要産業ニ對スル資金ノ供給

竝ニ有價證券ノ市價安定ヲ遂行スル爲ニハ、之ニ要スル同金庫ノ資金調達能力ヲ擴張スルノ必要ガアリマスノデ、戰時金融債券發行限度ヲ、拂込資本金額ノ十倍カラ三十倍ニ擴張致サウト致ス次第デアリマス、次ニ生命保險中央會法案ニ付テ説明致シマス、生命保險制度ニ關シマシテハ、其ノ適切ナル運營ニ依リマシテ、戰爭危險ニ對スル生命保險ニ付萬全ノ措置ヲ講ジ、以テ戰時國民生活ノ安定確保ニ資スルコトハ極メテ緊要デアリマス、而シテ民營生命保險事業ニ於キマシテモ、支那事變勃發以來、各生命保險會社ハ相互ノ申合セニ依リマシテ、約款ノ規定ノ如何ニ拘ラズ、戰爭死亡ニ對シテモ保險金ノ支拂ヲ行ヒ、大東亞戰爭勃發後モ引續キ之ガ實行ヲ爲シテ來テ居ル外、特ニ新契約ニ付キマシテハ、昭和十八年二月各會社間ノ申合セニ基キマシテ約款ヲ統一シ、戰爭危險ニ對シテモ生命保險金ノ支拂ヲ行フコトトシ、以テ戰時國民生活ノ安定ニ寄與ヲ爲シ來ツタノデアリマス、併シナガラ生命保險事業ノ計算ノ要素ノ中ニハ、戰爭危險ハ何等加味サレテ居ラナイノデアリマサルカラ、今後戰局ノ進展ニ伴ヒ、戰爭死亡ニ對スル保險金ノ支拂ガ更ニ増加致シマスルニ於テハ、保險事業ノ基礎ヲ薄弱ニ致シ延イテハ保險金支拂ニモ差支ヲ生ズルノ虞ナシトシナイノデアリマシテ、國家大局上カラ考ヘマシテ甚ダ適當デナイト考ヘマスノデ、今回政

府ハ、殆ド其ノ全額ヲ政府出資ト致シマスル生命保險中央會ヲ設ケマシテ、之ヲシテ生命保險ニ對スル戰爭危險ノ再保險ノ引受事業ヲ行ハシメマシテ、以テ戰爭ニ因ル死亡ニ對スル生命保險會社ノ保險金ノ支拂ヲ確保セムトスルモノデアリマス、次ニ損害保險中央會法案ニ付キ説明致シマス、第一ハ戰爭ノ現狀ニ鑑ミマシテ、損害保險事業ニ課セラレタル、實務ハ愈々重大ナルモノガアルノデアリマシテ、之ガ圓滑ナル運營ニ依リマシテ、銃後ニ於ケル經濟及一般民心ノ安定確保ニ資スルコトハ極メテ緊要デアルト存ジマス、之ガ爲政府ニ於キマシテ襲ニ損害保險兩營再保險法、戰爭保險臨時措置法、戰時特殊損害保險法等ヲ制定シ、損害保險制度ヲ整備強化シテ參ツタノデアリマス、然ルニ其ノ再保險制度ニ付キマシテハ、從來ノ機構ヲ以テシテハ今尙十分デアルトハ申シ難イノデアリマシテ、政府民間兩者ノ間ニ再保險手續ノ重複スルモノアル等、其ノ運營ニ缺クル所尠カラザルモノガアルノデアリマス、茲ニ於キマシテ政府ハ今回新タニ損害保險中央會ヲ設立シ、陸上海上ノ普通事故竝ニ戰爭事故ニ對スル保險制度ノ運營ヲ、全面的ニ同會ヲシテ取扱ハシメ、損害保險ノ再保險機構ヲ整備スルト共ニ、損害保險制度ノ圓滑ナル運營ニ資セシムトスルモノデアリマス、次ニ臺灣銀行法中改正法律案ニ付テ説明致シマス、現下ノ戰局ニ對處シ、急

速ナル戰力増強ニ資スル爲、臺灣ニ於キマシテモ内地ニ於ケルト同様硬貨ノ回收ヲ圖ル必要ガアルノデアリマス、仍テ此ノ際臺灣ニ於テモ内地同様券面金額一圓未満ノ小額銀行券ヲ印刷シ、臺灣銀行ガ硬貨ニ代ヘ之ヲ發行シ得ル權能ヲ與ヘムトスルモノデアリマス、以上六件ノ法律案ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正巳君 只今議題トナリマシタ軍需金融等特別措置法案外五件ハ、外資金融法案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(公爵徳川圀順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知申上ゲマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時十五分散會

